

徳島健生病院年報目次

I 概要		IV 各委員会等活動実績（管理番号順）	
理念と方針 病院の理念/基本方針	2	感染対策委員会	52
民医連綱領	3	医療ガス安全管理委員会	52
いのちの章典	4	倫理委員会	53
院長挨拶	5	安全衛生委員会	53
病院概要（沿革）	7	医療安全管理対策委員会	54
施設基準	9	注射内服小委員会	54
病院組織図	10	化学療法委員会	55
卒後臨床研修概要	11	健診プロジェクト委員会	55
II 医療経営統計		システムHP委員会	56
1.医療経営統計	14	診療情報管理委員会	56
2.入院統計		減点査定委員会	57
退院患者診療科別統計表	15	接遇倫理委員会	57
退院患者診療科別・月別・性別統計表	15	薬事委員会	58
診療科別退院疾病中分類（ICD-10）上位表	16	輸血委員会	58
手術中分類（ICD-9-CM）男女別統計表	17	NST委員会	59
III 各科、各部門活動実績		給食委員会	59
1.診療部門の活動状況		臨床検査適正化委員会	60
内科・総合診療科	20	褥瘡対策委員会	60
外科	21	防災委員会	61
整形外科	22	医師研修管理委員会	61
眼科	23	無料低額診療委員会	62
脳神経外科	24	医師研修委員会	62
心療内科	25	感染対策チーム会議	63
透析科	26	病院組織委員会	63
2.部門の活動状況		事業所利用委員会	64
技術部門		感染対策推進リーダー会議	64
外来	27	コーディング委員会	65
3階病棟	28	年報編集委員会	65
4階病棟	29	医療放射線管理委員会	66
5階病棟	30	看護業務基準委員会	66
別館4階病棟	31	看護記録委員会	67
中材・OP室	32	糖尿病ケアサポート委員会	67
透析室	33	糖尿病看護チーム会議	68
看護部	34	医療材料委員会	68
医療安全管理室	35	クリティカルパス委員会	69
看護QI室（感染管理・糖尿病看護）	36	医療安全推進担当者会議	69
検査科	37	広報チーム会議	70
放射線科	38	緩和ケアチーム会議	70
リハビリテーション科	39	ストーマケアチーム会議	71
食養科	40	骨粗鬆症対策チーム会議	71
薬剤科	41	ボランティア委員会	72
デイケア室	42	教育委員会	72
保健予防部門		QI委員会	72
健診センター	43	看護必要度SP委員会	72
事務部門		V 研究業績	
地域連携相談室	44	学会発表	74
医事課	45	医療介護活動・運動交流集会	75
庶務課	46	院内全体学習会	76
医局事務課	47	VI 病院活動	
システム課	48	専門外来について	78
事務部	49	病院活動	79
		2022年12月 院内クラスターのまとめ	81
		にじいろ（徳島健生病院だより）	84
		医師名簿（50音順）	89
		部署別資格取得一覧	92
		編集後記（徳島健生病院年報編集委員会）	94

I

概要



徳島健生病院 理念

患者さんとともに安全・安心で信頼される医療を実践します。

徳島健生病院 基本方針

1. いつでもだれでも安心してかけられる病院として、
患者さんのいのちとくらしを守ります。
2. 急性期から慢性期・在宅まで切れ目のない医療を提供し、
患者さんの人生に寄り添います。
3. 地域の人々とともに、健康づくりに取り組みます。
4. ひとりひとりが日々学び、成長し、力を合わせて医療の質
の向上に努めます。
5. 地域の医療機関や施設との連携を強化し、頼りにされる
病院を目指します。

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日

全日本民主医療機関連合会 第39回定期総会

医療福祉生協のいのちの章典

はじめに

日本生活協同組合連合会医療部会は「医療生協の患者の権利章典」「医療生協の介護」を策定し、事業と運動の質を高めてきました。これらの活動を引きつぎ、2010年日本医療福祉生活協同組合連合会（医療福祉生協連）が発足しました。

医療福祉生協は、いのちとくらしを守り健康をはぐくむ事業と運動を大きく広げるため、これらの成果を踏まえ、医療福祉生協連の設立趣意書の内容を基本にして「医療福祉生協のいのちの章典」（いのちの章典）を策定します。

「いのちの章典」は、憲法をもとに人権が尊重される社会と社会保障の充実をめざす、私たちの権利と責任を明らかにしたものです。

医療福祉生協とは

医療福祉生協は、地域のひとびとが、それぞれの健康と生活にかかわる問題を持ちよる消費生活協同組合法にもとづく自治的組織です。医療機関・介護事業所などを所有・運営し、ともに組合員として生協を担う住民と職員の協同によって、問題を解決するための事業と運動を行います。

医療福祉生協が大切にしている価値と健康観

私たちは、近代市民社会の大原則であり、日本国憲法の基本理念である主権在民の立場にたちます。私たちは、憲法13条の幸福追求権や9条の平和主義、25条の生存権を実現するため、主権在民の健康分野の具体化である健康の自己主権を確立します。

私たちが大切にしている健康観は「昨日よりも今日が、さらに明日がより一層意欲的に生きられる。そうしたことを可能にするため、自分を変え、社会に働きかける。みんなが協力しあって楽しく明るく積極的に生きる」というものです。

私たちは、この価値と健康観にもとづき、医療・介護・健康づくりの事業と運動をすすめて、地域まるごと健康づくりをめざします。

いのちとくらしを守り健康をはぐくむための権利と責任

ともに組合員として生協を担う私たち地域住民と職員には、いのちとくらしを守り健康をはぐくむために、以下の権利と責任があります。

<自己決定に関する権利>

私たちは、知る権利、学習権をもとに自己決定を行います。

<自己情報コントロールに関する権利>

私たちは、個人情報保護されると同時に、本人の同意のもとに適切に利用することができるようにします。

<安全・安心な医療・介護に関する権利>

私たちは、安全・安心を最優先にし、そのための配慮やしきみづくりを行います。

<アクセスに関する権利>

私たちは、必要な時に十分な医療・介護のサービスを受けられるように社会保障制度を改善し、健康にくらすことのできるまちづくりを行います。

<参加と協同>

私たちは、主体的にいのちとくらしを守り健康をはぐくむ活動に参加し、協同を強めてこれらの権利を発展させます。

2013年6月7日

日本医療福祉生活協同組合連合会 第3回通常総会

2022 年度年報発刊によせて

徳島健生病院 病院長 佐々木清美

私たちは、かつてない速度で時代も社会も激変する時を迎えていると思います。求められる医療の中身も大きく変化しました。かつては、全ての治療手段を尽くして少しでも治癒や延命を目指すのが医療人の常識であったと思いますが、今は独居高齢者や老老介護で厳しい状態にある方々の最後の日々をどう支え、軟着陸していただくかということも大きな課題になっています。そして、病院といえども、患者さんの生活をどのように支えるかという視点を持たずしては医療活動が完遂されません。

医師がほぼ全てのことに決定権を持ち、パラメディカルのスタッフが一步下がって医師の命を承るのが当たり前なかつての日本の医療のありようも、大きく変化しました。さまざまな職種が患者さんを取り巻くようにして、病気のみならず退院後の生活も見据えた対応を行うこともだんだんと当たり前になってきました。

さらに、病院ごとの機能分化も確実に進み、地域社会からそれぞれの病院に求められるものがなんであるかを度外視しては存続し得ない状況です。

では徳島健生病院に求められる役割とはなんでしょうか？自院で提供する手術を含めた急性期治療、そして、基幹型病院で治療を受けた後の方のリハビリを含めた受け入れ、200 床以下の病院に求められるかかりつけ医機能的な外来診療など、多岐にわたる役割が求められてきたと思います。2022 年度はがんの終末期の方もたくさん紹介いただきました。

救急車受け入れ数において、徳島健生病院は、県内民間医療機関では第 2 位の実績を持っています。特に、病院のベッドが患者さんであふれる冬場に、通常歩行時の転倒など、骨粗鬆症をベースにして比較的軽微な外力で多発する大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折で動けなくなった高齢者の方々が大量搬送されてきています。できるだけ早期に手術を行うことでこれらの方々の生命予後も QOL も改善すると言われており、診療報酬で加算がつく前から 48 時間以内の手術対応を目標にして取り組みを進めてきました。とりわけ脊椎圧迫骨折につ

いては、手術侵襲の少ない BKP（経皮的椎体形成術）で、以前なら 2 週間の臥床を強いられていた患者さんが、手術の翌日には何事もなかったように歩行し、短期間で退院していく姿を多く目にします。とはいうものの、年配の方々にとっては、入院にいたるようなライフイベントが起こることで階段状にフレイルが進行してしまうと言われており、当院においても、骨幹部骨折後、受傷前と同等の状態まで回復する方ばかりではありません。その様子を間近に見ている当院整形外科医を中心に、そもそも骨折を起こさないように、そして一度骨折した方についても、2 度と骨折することがないように、適切な骨粗鬆症治療を行うことこそが重要として、チームで取り組む骨粗鬆症対応を始めました。

患者さんとともに、安心安全で信頼される医療を提供するという根っこを見失うことがないように肝に銘じつつ、これからも、地域や時代に求められる医療を提供していこうと思います。

どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

徳島健生病院沿革

西暦（年）	月	
1964	7	健生診療所（19床）開設
1966	9	徳島健生病院となる（34床）
1973	5	病院新築（現在地：140床）
	10	労災指定病院認可
1974	2	原爆医療法による認定医療機関許可
1976	10	訪問看護開始
1977	12	健生病院付属診療所開設
1981	11	病院内に訪問看護課開設 二次救急告示医療機関認定
1982	1	重症看護・重症患者収容施設として13床認可
	6	個室増床（許可病床数134床）
1983	7	小児科開設
1984	5	整形外科研修病院認定
	8	19床増床（許可病床数153床）
	11	健生病院付属診療所閉院
1986	1	産婦人科開設
	4	西館竣工（許可病床数252床）
1996	10	人工透析開始
1997	6	デイケア開始
	11	健生小児科クリニック開設
1998	4	眼科開設
	6	健生渭北診療所開設
	12	健生石井病院へ50床分床（許可病床数202床）
1999	8	マンモグラフィー・骨密度測定器導入
2001	2	産婦人科閉科
	7	許可病床数198床
2002	11	許可病床数190床（一般病棟142床 療養48床） MRI導入 総合リハビリテーション開設
2003	4	健生渭北診療所閉院
2004	2	電子カルテ・オーダーリング導入
	10	回復期リハビリテーション病棟開設
	11	臨床研修指定病院許可 敷地内全面禁煙開始
2005	6	二次救急告示取下げ
	10	日本医療機能評価（Ver5）受審
2006	4	許可病床数186床（一般病床138床 回復期48床）
	7	障害者病棟開設（一般病床98床 障害者40床 回復期48床）
	9	病床定員数変更（一般病床101床 障害者37床 回復期48床）
	12	病床定員数変更（一般病床102床 障害者60床 回復期24床）
2009	6	病床定員数変更（一般病床101床 障害者61床 回復期24床） 亜急性期病床取得 10床
	7	64列マルチスライスCT（64列MDCT）導入、PACS導入
2010	12	日本医療機能評価（Ver6）更新
2011	4	二次救急告示再開 無料低額診療事業開始
2012	4	亜急性期病床 15床
2013	3	稼動病床数162床（一般病床101床 障害者37床 回復期24床）
	7	亜急性期病床 10床
2014	10	稼動病床定員数変更（一般病床53床 障害者85床 回復期24床） 亜急性期病床廃止
2015	9	稼動病床数174床（一般病床53床 障害者85床 回復期36床）
	12	日本医療機能評価（3rdG）更新
2016	10	地域包括ケア病床開設 40床 稼動病床174床構成変更 （一般病床53床 障害者45床 回復期36床 地域包括ケア40床）
2017	10	新医事システム稼動
2018	4	脳神経外科開設

西暦(年)	月	
2018	7	回復期病床増床 40床 稼働病床178床構成変更 (一般病床53床 障害者45床 回復期40床 地域包括ケア40床)
	12	回復期病床増床 48床 稼働病床186床構成変更 (一般病床53床 障害者45床 回復期48床 地域包括ケア40床)
2019	6	新病院建設着工
2020	12	新病院建設竣工式 新病院棟開院 稼働病床186床構成変更 (一般病床50床 地域包括ケア60床 回復期48床 障害者28床) 電子カルテバージョンアップ(Newtons2) 80列マルチスライスCT更新 MRI更新 マンモグラフィ(トモシ シス)更新 DR装置導入 一般撮影装置更新 被ばく線量管理シ ム導入
2021	1	稼働病床186床構成変更 (一般病床50床 地域包括ケア60床 回復期48床 療養28床)
	1	別館リニューアル工事着工
2022	8	別館リニューアル完成(医局・管理室・庶務課移転)
	1	日本医療機能評価(3rdG:Ver.2.0)更新
	7	訪問リハビリテーション開始

施設基準

基本診療料

機能強化加算	感染対策向上加算2 連携強化加算 サーベイランス強化加算
一般病棟入院基本料	後発医薬品使用体制加算1
療養病棟入院基本料1	病棟薬剤業務実施加算1
臨床研修病院入院診療加算	データ提出加算2 ロ (200床未満) 提出データ評価加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	入退院支援加算1 入院時支援加算 地域連携診療計画加算
診療録管理体制加算2	認知症ケア加算 (加算3)
医師事務作業補助体制加算2 (40対1および50対1)	せん妄ハイリスク患者ケア加算
急性期看護補助体制加算 (25対1)	回復期リハビリテーション病棟入院料1
重症者等療養環境特別加算	地域包括ケア病棟入院料1 看護職員配置加算 (50対1)
療養病棟療養環境加算2	看護処遇改善評価料37
医療安全対策加算2 医療安全対策地域連携加算2	

特掲診療料

外来栄養食事指導料1	大腸CT撮影加算
導入期加算1	外来化学療法加算1
糖尿病合併症管理料	無菌製剤処理料
がん性疼痛緩和指導管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料 初期加算
糖尿病透析予防指導管理料	運動器リハビリテーション料 (I) 初期加算
二次性骨折予防継続管理料1	呼吸器リハビリテーション料 (I) 初期加算
二次性骨折予防継続管理料2	処置の休日加算1 処置の時間外加算1 処置の深夜加算1
二次性骨折予防継続管理料3	人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合1)
小児科外来診療料	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
夜間休日救急搬送医学管理料	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
救急搬送看護体制加算2 (夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる)	手術の休日加算1 手術の時間外加算1 手術の深夜加算1
外来リハビリテーション診療料	後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの)
外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算	椎間板内酵素注入療法
ニコチン依存症管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算2
がん治療連携指導料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)
肝炎インターフェロン治療計画料	胃瘻造設術 (通則16)
薬剤管理指導料	輸血管理料II
電子的診療情報評価料	輸血適正使用加算
医療機器安全管理料1	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
別添1の「第14の2」の1の(2)に規定する在宅療養支援病院 (強化型連携型)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
在宅時医学総合管理料 施設入居時等医学総合管理料	麻酔管理料 (I)
在宅患者訪問褥瘡管理指導料	
BRCA1/2遺伝子検査	
検体検査管理加算 (I)	
検体検査管理加算 (II)	
ロービジョン検査判断料	
コンタクトレンズ検査料1	
センチネルリンパ節生検 (単独)	
CT透視下気管支鏡検査加算 (マルチスライスCT <64列以上>)	
CT撮影及びMRI撮影 MRI (1.5テスラ以上3テスラ未満)	
16列以上64列未満のマルチスライスCT	

食事療養費・生活療養費

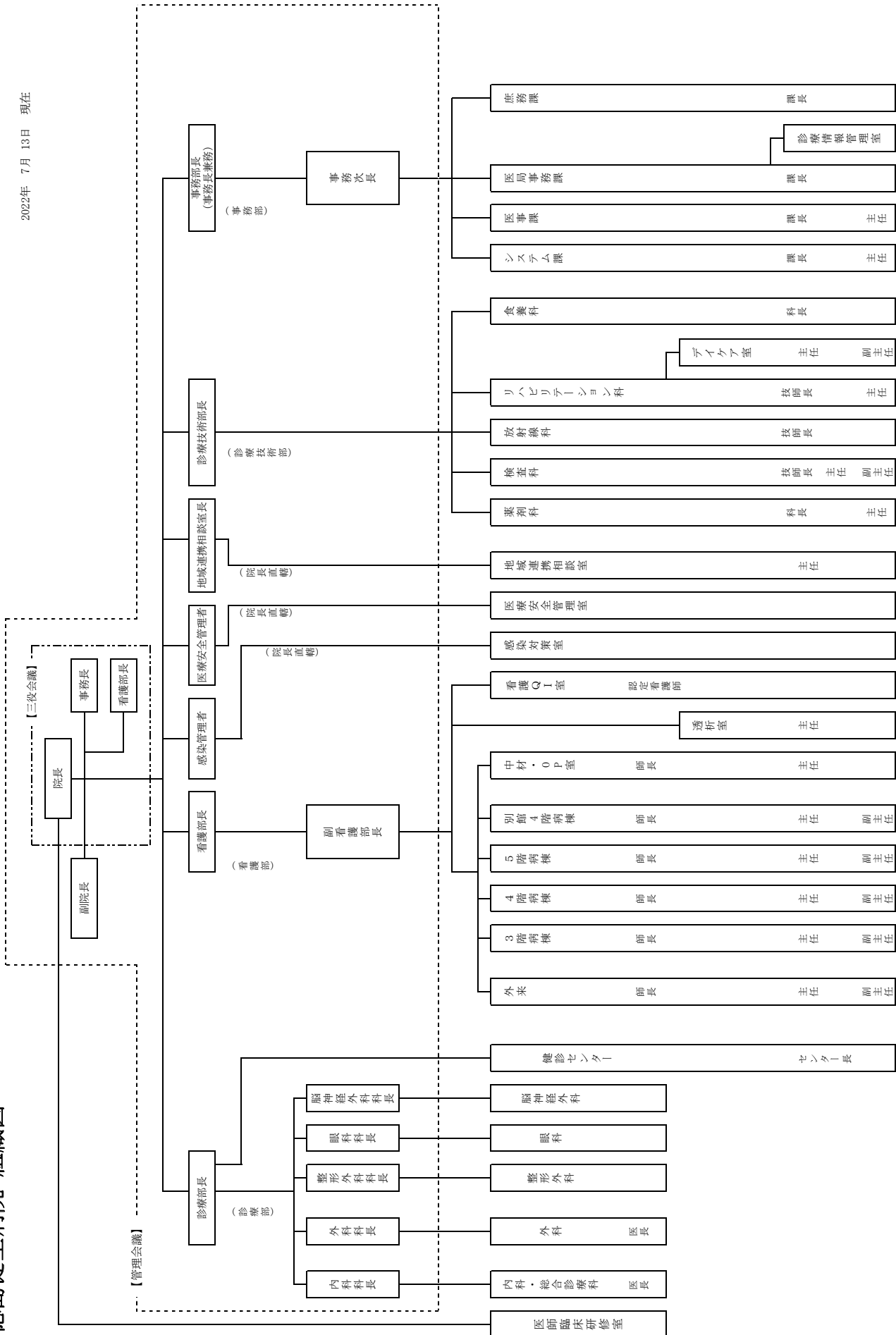
入院時食事療養 (I) ・入院時生活療養 (I) 食堂加算

その他の届け出

酸素の購入価格に関する届出

徳島健生病院 組織図

2022年 7月 13日 現在



医師臨床研修概要

卒後医師臨床研修

<研修プログラムの理念>

医師としての人格を涵養し、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ一般診療における負傷・疾病に適切に対応できるプライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につける

<目的>

- ・徳島健康生活協同組合での医療活動を担える医師や、将来専門とする分野に関わらず様々なフィールドで活躍できる医師の養成を目指します
- ・入院・外来・救急・在宅医療といった第一線医療の中で幅広い問題解決能力を持ち、人間性にあふれ、患者の抱える問題を身体的・心理的、生活や社会的背景も含めて受け止められる医師の養成を目指します
- ・患者やその家族との十分なコミュニケーションの下に総合的な診療をおこなえる医師の養成を目指します
- ・徳島健康生活協同組合の組合員との共同による予防医学にとどまらず、健康で暮らしやすいまちづくりに取り組む医師の養成を目指します
- ・医師としてのプロフェッショナリズムの遂行に必要な資質と能力を身につけることを目指します

<研修の特徴>

- ・ローテート研修
- ・各診療科の医師に常に相談できる研修環境
- ・看護師をはじめ多職種と協力するチーム医療研修
- ・患者さんの身体的・心理的問題や社会背景も含めた全人的アプローチを学ぶ研修
- ・入院から在宅までつながりのある研修
- ・患者会や組合員への医療学習会を通じて地域にも育まれる研修
- ・研修医自らが参加して作り上げる研修

初期臨床研修医在籍状況

徳島健生病院の初期臨床研修研修プログラムで研修した数のみ掲載

	1年次	2年次
2004年度	1	—
2005年度	1	—
2006年度	1	1
2007年度	2	1
2008年度	1	2
2009年度	—	1
2010年度	1	—
2011年度	—	1
2012年度	1	—
2013年度	—	1
2016年度	1	—
2017年度	1	1
2018年度	1	1
2019年度	—	1

	1年次	2年次
2020年度	—	—
2021年度	1	—
2022年度	1	—

専門医研修プログラム

基幹型として持っているもの

- ・徳島健生病院 総合診療専門研修プログラム
- ・徳島健生病院 家庭医療専門医研修プログラム

II

医療経営統計

1

医療経営統計

2

入院統計



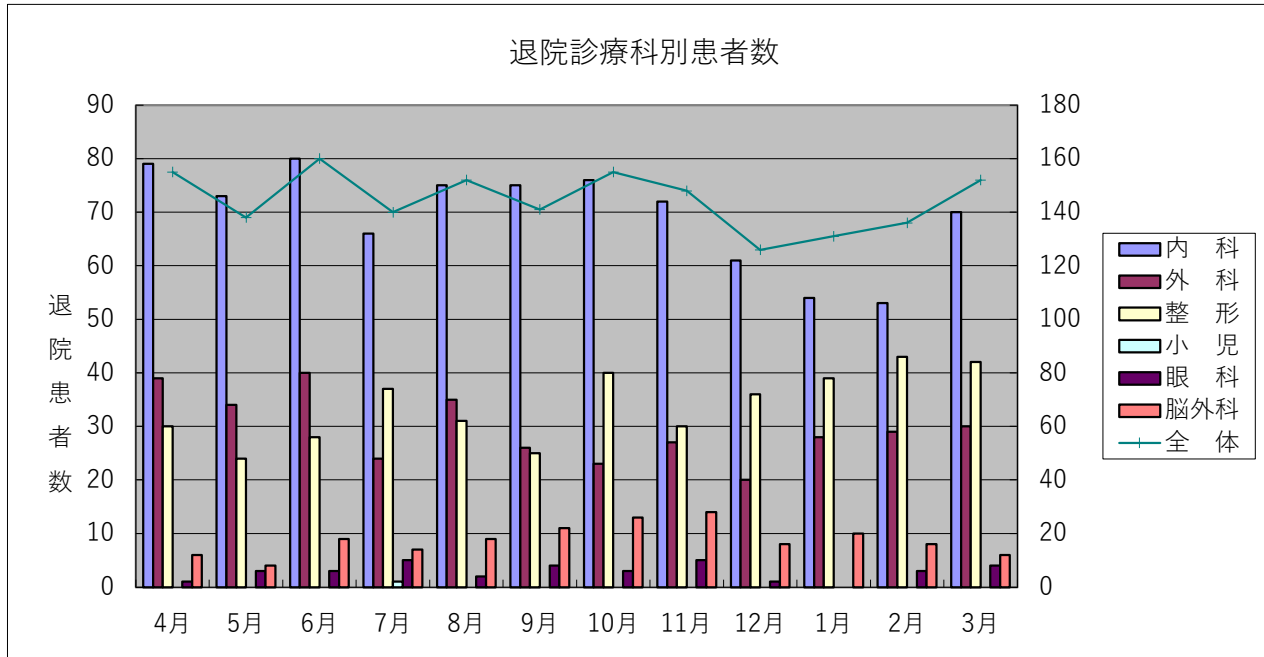
医療経営統計

項目名		2021年度	2022年度
		月平均	月平均
急性期一般病棟（10対1）	届出病床数	50	50
	入院件数	138	142
	入院数	98	102
	退院数	98	101
	延患者数	1,349	1,318
	1日患者数	41.3	39.9
	平均在院日数（単月）	12.3	11.6
	入院点数（千点）	7,658	7,788
	日当点	5,676	5,909
	件当点	55,587	55,041
地域包括ケア病棟	届出病床数	60	60
	入院件数	105	115
	入院数	63	68
	退院数	61	65
	延患者数	1,399	1,524
	1日患者数	44	48
	平均在院日数（単月）	23	22
	入院点数（千点）	4,873	5,507
	日当点	3,483	3,615
	件当点	46,716	48,666
回復期リハビリ病棟	届出病床数	48	48
	入院件数	66	68
	入院数	26	23
	退院数	25	23
	延患者数	1,326	1,426
	1日患者数	42.8	46.0
	平均在院日数（単月）	51.8	61.9
	入院点数（千点）	4,566	4,951
	日当点	3,443	3,471
	件当点	68,908	72,705
療養病棟	届出病床数	28	28
	入院件数	34	33
	入院数	10	6
	退院数	10	9
	延患者数	766	839
	1日患者数	25	27
	平均在院日数（単月）	88	120
	入院点数（千点）	1,587	1,736
	日当点	2,072	2,070
	件当点	46,583	50,933

項目名		2021年度	2022年度
		月平均	月平均
外来	外来件数	3,203	3,374
	延患者数	4,619	4,820
	1日患者数	188.6	196.1
	新患者数	137	171
	初診患者数	424	498
	外来点数（千点）	6,543	6,875
	日当点	1,417	1,426
	時間外受入患者数（再掲）	143	185
	時間外新患者数（再掲）	59	79
	時間外初診患者数（再掲）	96	129
	救急搬入患者数（再掲）	83	106
	救急搬入新患者数（再掲）	40	58
	救急搬入入院患者数	27	31
	訪問診療	訪問診療件数	22
訪問診療点数（千点）		129	123
件当点		5,904	5,507
透析	透析 件数	311	297
	透析 延患者数	3,544	3,480
手術	手術室 手術件数（総件数）	718	852
	外科 入院（再掲）	212	219
	外科 外来（再掲）	65	27
	整形外科 入院（再掲）	317	487
	整形外科 外来（再掲）	51	37
	眼科 入院（再掲）	45	32
放射線	眼科 外来（再掲）	73	50
	CT（CTC含む）	359	388
	大腸CT	24	20
	MRI	211	213
	一般	986	1,057
	骨密度	243	247
	マンモグラフィー	56	51
リハビリテーション	X線TV（造影）	16	16
	PT（入院）	6,262	6,149
	OT（入院）	3,035	3,287
	ST（入院）	690	884
	PT（外来）	59	3
	OT（外来）	0.0	0.0
	ST（外来）	0.0	0.0
	【再掲】		
	PT 脳血管（入院）	1,601	1,537
	脳血管（外来）	10	0
	運動器（入院）	3,930	4,029
	運動器（外来）	49	2
	呼吸器（入院）	269	169
	呼吸器（外来）	0	0
	廃用（入院）	461	414
	OT 脳血管（入院）	1,483	1,649
	脳血管（外来）	0.00	0.00
	運動器（入院）	1,483	1,584
	運動器（外来）	0	0
呼吸器（入院）	17	16	
呼吸器（外来）	0	0	
廃用（入院）	50	37	
ST 脳血管（入院）	637	842	
脳血管（外来）	0	0	
呼吸器（入院）	8	15	
廃用（入院）	10.0	22.0	
摂食機能（入院）	35	20	
摂食機能（外来）	0	0	

退院患者診療科別統計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	科別計
内科	79	73	80	66	75	75	76	72	61	54	53	70	834
外科	39	34	40	24	35	26	23	27	20	28	29	30	355
整形	30	24	28	37	31	25	40	30	36	39	43	42	405
小児	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
眼科	1	3	3	5	2	4	3	5	1	0	3	4	34
脳外科	6	4	9	7	9	11	13	14	8	10	8	6	105
全体	155	138	160	140	152	141	155	148	126	131	136	152	1,734



退院患者統計表 (診療科別・月別・性別)

	内科		外科		整形外科		小児科		眼科		脳神経外科		総数	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	429	405	184	171	155	250	0	1	9	25	59	46	836	898
4月	38	41	22	17	11	19	0	0	0	1	3	3	74	81
5月	36	37	19	15	11	13	0	0	2	1	2	2	70	68
6月	36	44	24	16	8	20	0	0	0	3	6	3	74	86
7月	27	39	11	13	14	23	0	1	3	2	3	4	58	82
8月	42	33	17	18	17	14	0	0	0	2	3	6	79	73
9月	38	37	12	14	12	13	0	0	0	4	5	6	67	74
10月	41	35	14	9	18	22	0	0	1	2	10	3	84	71
11月	38	34	10	17	11	19	0	0	2	3	10	4	71	77
12月	31	30	13	7	8	28	0	0	0	1	5	3	57	69
1月	34	20	12	16	19	20	0	0	0	0	4	6	69	62
2月	34	19	14	15	12	31	0	0	0	3	5	3	65	71
3月	34	36	16	14	14	28	0	0	1	3	3	3	68	84
死亡	25	27	22	14	1	1	0	0	0	0	3	1	51	43
剖検	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

診療科別退院疾病中分類 (ICD-10) 上位表

※疾病,傷害および死因統計分類提要ICD-10準拠 第2巻 (内容例示表) で表記しています

診療科	順位	ICD-10	病名	件数
内科	1	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	65
	2	I50	心不全	53
	3	N39	尿路系のその他の障害	48
	4	E11	インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>	46
	5	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	34
	—	M62	その他の筋障害	34
	7	J69	固形物および液状物による肺臓炎	27
	8	J18	肺炎、病原体不詳	24
	9	H81	前庭機能障害	17
	10	N18	慢性腎不全	15
	—	Z03	疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	15
	12	J84	その他の間質性肺疾患	14
	13	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	13
	—	K57	腸の憩室性疾患	13
	15	K74	肝線維症および肝硬変	12
	—	T67	熱および光線の作用	12
	17	K55	腸の血行障害	11
	—	L03	蜂巣炎	11
	19	—	159件以下 略	370
小計				834
外科	1	I84	痔核	36
	2	K80	胆石症	35
	3	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	31
	4	C16	胃の悪性新生物	18
	—	K35	急性虫垂炎	18
	6	C18	結腸の悪性新生物	16
	7	S72	大腿骨骨折	14
	8	K40	そけい<直径>ヘルニア	13
	9	C20	直腸の悪性新生物	11
	10	K56	麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	10
	—	L03	蜂巣炎	10
	12	C50	乳房の悪性新生物	8
	13	C15	食道の悪性新生物	7
	—	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	7
	—	K62	肛門及び直腸のその他の疾患	7
	16	C34	気管支および肺の悪性新生物	6
	17	K57	腸の憩室性疾患	5
	18	—	64件以下 略	103
小計				355
整形外科	1	M48	その他の脊椎障害	77
	2	S32	腰椎および骨盤の骨折	69
	3	S72	大腿骨骨折	56
	4	S22	肋骨、胸骨および胸椎骨折	28
	5	M17	膝関節症[膝の関節症]	20
	6	T84	体内整形外科的プロステーシス、挿入物および移植片の合併症	17
	7	S82	下腿の骨折、足首を含む	16
	8	S42	肩および上腕の骨折	15
	9	M47	脊椎症	13
	10	S52	前腕の骨折	12
	—	M51	その他の椎間板障害	9
	12	M50	頸部椎間板障害	8
	13	M05	血清反応陽性関節リウマチ	6
	—	S46	肩および上腕の筋および腱の損傷	6
	15	M16	股関節症[股関節部の関節症]	5
	16	—	32件以下 略	48
小計				405
小児科	1	F80	会話および言語の特異的発達障害	1
	小計			
眼科	1	H25	老人性白内障	31
	2	H02	眼瞼のその他の障害	1
	3	—	2件以下 略	2
小計				34
脳神経外科	1	I63	脳梗塞	51
	2	I61	脳内出血	16
	3	C71	脳の悪性新生物	9
	4	S06	頭蓋内損傷	6
	5	—	15件以下 略	23
小計				105
合計				1,734

手術中分類（ICD-9-CM）男女別統計表

※ICD-9-CM 手術および処置の分類 2003 日本病院会版で表記しています

ICD-9-CM	術 名	男	女	総 数
03	脊髄および脊柱管構造物の手術	11	8	
04	脳神経および末梢神経の手術	0	3	
08	眼瞼の手術	2	0	
10	結膜の手術	0	1	
13	水晶体の手術	9	24	
14	網脈, 脈絡膜, 硝子体および後房の手術	3	0	
28	口蓋扁桃およびアデノイドの手術	1	0	
31	喉頭および気管のその他の手術	0	1	
38	血管の切開術, 切除術および閉塞術	18	14	
39	血管のその他の手術	1	0	
42	食道の手術	2	0	
43	胃の切開術および切除術	12	14	
44	胃のその他の手術	3	3	
45	腸の切開術, 切除術および吻合術	72	34	
46	腸のその他の手術	3	1	
47	虫垂の手術	10	7	
48	直腸, 直腸S状結腸および直腸周囲組織の手術	1	3	
49	肛門の手術	15	29	
51	胆嚢および胆道の手術	26	22	
53	ヘルニアの修復術	11	4	
54	腹部のその他の手術	5	2	
61	陰嚢および精巣鞘腫の手術	1	0	
65	卵巣の手術	0	1	
77	その他の骨の切開術, 切除術および切離術	2	2	
78	顔面骨以外の骨のその他の手術	83	108	
79	骨折および脱臼の整復術	11	55	
80	関節構造物の切開術および切除術	3	0	
81	関節構造物の修復術および形成術	39	85	
82	手の筋, 腱および筋膜の手術	3	1	
83	手以外の筋, 腱, 筋膜および滑液包の処置	5	2	
84	筋骨格系のその他の処置	3	3	
85	乳房の手術	0	7	
86	皮膚および皮下組織の手術	36	20	
合 計		391	454	845

III

各科、各部門活動実績

1

診療部門の活動状況

2

部門の活動状況

1 技術部門

2 保健予防部門

3 事務部門

内科・総合診療科

医師体制

- 副院長 松田知子
- 医局長 岸田典子
- 科長 今井正雄
- 医長 阿部潤一 山下英世
村野栄一
- 医員 古川民夫 田中宏美
中野万有里
- 研修医 鈴木耕一郎
- 非常勤医 吉田全夫 堀内宏美
大倉佳宏 遠藤健
森敬子



2022年度 診療概要

- 1)内科医師全員がgeneralist + subspecialistとして診療
- 2)急性疾患ほか、糖尿病・高血圧症・高脂血症などの慢性疾患管理
- 3)糖尿病などの教育入院
- 4)糖尿病や気管支喘息の患者会活動支援
- 5)外来診療・病棟診療・リハビリテーション指示・在宅訪問診療
- 6)発熱外来

<体制>

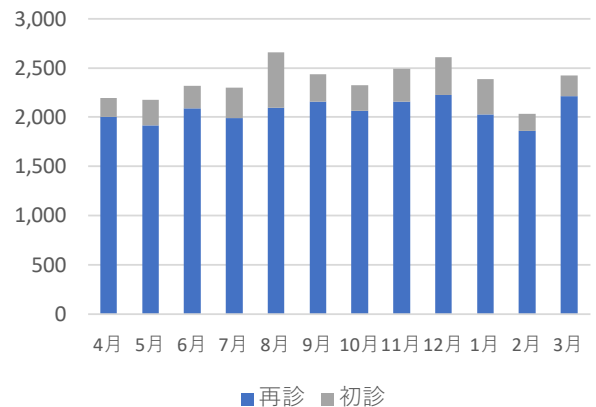
- 外来診療 月～土 午前
月～金 午後
火～木 夜間
- 睡眠時無呼吸外来 木曜日午後
- 禁煙外来 木曜日午後
- 呼吸器外来 水曜日午後
- 上部消化管内視鏡検査・大腸ショート
月～土(金以外)
- 大腸内視鏡検査 月・水

<情報共有>

- 地域包括ケア病床カンファレンス 1回/週
- 病棟カンファレンス 1回/週
- 外来新患カンファレンス 1回/週
- 在宅カンファレンス 1回/週
- 内科医会 1回/週

診療実績

内科・総合診療科患者数
(2022.4-2023.3)



		件数	総件数
胃カメラ	経口	294	1,485
	経鼻	1,191	
大腸カメラ	ショート	81	149
	ロング	45	

外科

医師体制

- 院長 佐々木清美
- 科長 美馬一正
- 医長 美馬惇
- 嘱託医 吉田禎宏



2022年度 診療概要

1) 診療

(1) 外科医師体制

4名体制(前年度と変更なし)

(2) 手術総数

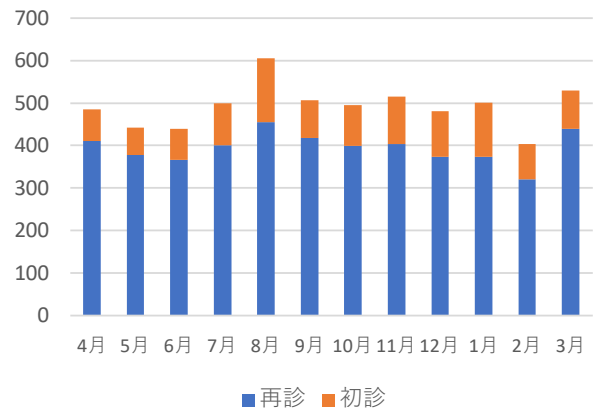
手術総数は前年度より28例増加。虫垂炎、胆道は前年度より増加したが、乳房、結腸は減少。総数の増加はCVポート、外来小手術増による

(3) 乳がん検診

乳がん検診数は前年度より40件減少した。がん発見率は増加した

診療実績

外科外来患者数 (2022.4-2023.3)



手術実績 (2022.4~2023.3) 手術件数 232 例

主な手術部位	症例数
乳房 (乳がん)	7 (4)
虫垂炎 (鏡視下)	18 (18)
胆道 (鏡視下)	37 (37)
胃 (悪性)	18 (2)
腸閉塞	0
結腸・直腸 (鏡視下)	9 (9)
肛門	46
小腸・結腸	2
ヘルニア (鏡視下)	18 16

乳がん検診の内訳と推移

	2020年度	2021年度	2022年度
乳がん検診	572件	670件	630件
要精査率	9.60%	10.30%	10.80%
がん発見率	0.35%	0.44%	0.79%

整形外科

医師体制

- 科長 峯田和明
- 医師 岡田正彦 鎌田光洋
- 非常勤医 松本壮司



2022年度 診療概要

1) 診療

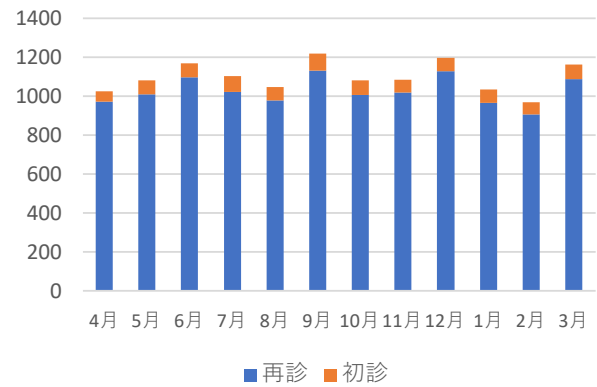
- (1) 整形外科全般を診断、保存療法、手術療法、リハビリテーションを一貫して行っている
- (2) 変性疾患(関節症、脊椎症、関節リウマチ)を主に、外傷疾患を積極的に取り入れ診療を展開した
- (3) 多職種に関わるプロジェクトチームによるチーム会議を定期的に行い、骨粗鬆症専門外来を開設し、骨粗鬆症に対する骨折予防の治療に尽力している
- (4) 骨粗鬆症に対する骨折予防のため意欲的に検査、治療に取り組むことから、医療福祉生協としての地域への関わりに重点を置く
- (5) 患者の早期離床およびADLの早期改善のため、積極的に経皮的椎体形成術(BKP)を実施
2021年度：94件 2022年度：95件
- (6) 特に脊椎の手術に力を入れており、徳島市内でも中心的な役割を担っている

2) 教育研修活動及び学術活動

- 2022年11月 第55回中国・四国整形外科学会
口演
「当院におけるテリパラチド週2製剤による治療
経験」 峯田和明
2023年2月 第53回日本人工関節学会 Web発表
「当院におけるセメントレスTKAの術後成績」 峯田
和明

診療実績

整形外科外来患者数(2022.4-2023.3)



手術実績 (2022.4~2023.3)

主な術式	症例数
骨折観血的手術	44
人工関節置換術	36
人工骨頭置換術	13
脊椎固定・脊椎手術	69
椎弓切除術・形成術	28
経皮的椎体形成術(BKP)	95

眼科

医師体制

- 科長 西内貴子
- 非常勤医 佐藤志乃

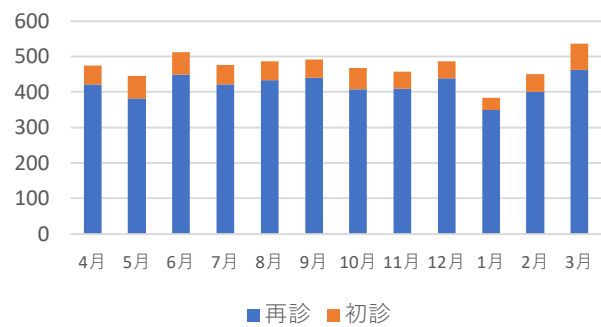


2022年度 診療概要

- 1)眼科一般診療、治療を行っている
コンタクトレンズ診療を行っている
- 2)外来・入院ともに他科からの眼部症状や全身疾患に関連する紹介を受け、連携を取りながら対応している
- 3)糖尿病眼合併症については、当院患者ほか他医療機関内科患者についても糖尿病療養手帳を活用しながら連携している
糖尿病専門外来での眼合併症に関するミニ学習会を開催している
糖尿病教育入院患者の眼合併症チェックを行っている
- 4)手術は患者の希望により(安全性も含め)日帰りと短期滞在入院を選択可能としている
- 5)在宅医療にも対応している(2022年度 2件)
2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり依頼が少なかった
- 6)健診での眼底カメラ判定やVDTチェック判定を行っている
- 7)関連診療所や徳島健康生協健康づくり事業部からの依頼により眼科学習会を開催(2022年度 0件)
- 8)スタッフ(非常勤看護師1名、視能訓練士2名)とともに正確な検査や安全な治療の遂行に留意して行っている

診療実績

眼科外来患者数 (2022.4-2023.3)



手術名	件数
水晶体再建術	71
(内訳) 日帰り	38
(内訳) 入院	32
毛様溝縫着術	1
眼瞼下垂手術	4
眼瞼内反症手術	2
眼瞼腫瘍摘出手術	2
翼状片手術	4
麦粒腫切開手術	8
涙点プラグ挿入術	1
角膜・強膜異物術	12
マイボーム腺梗塞摘出術	15
結膜結石除去術	13
網膜光凝固術	7
後発白内障切開術	11

脳神経外科

医師体制

○科長 藤本尚己



2022年度 診療概要

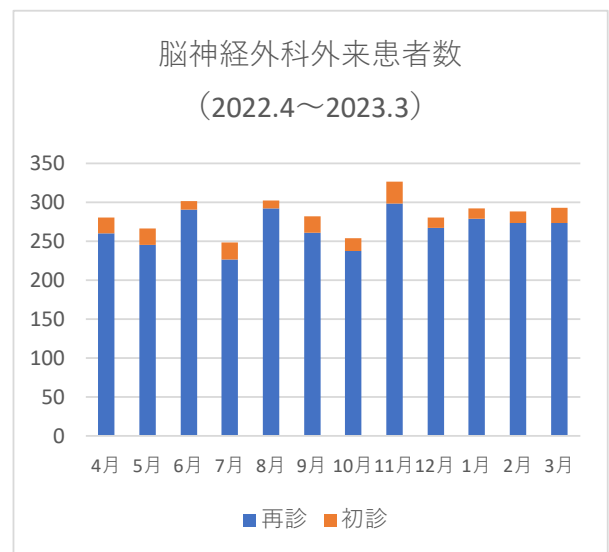
- 1) 外来診療の特徴として、頭痛、ふらつき、耳鳴等、気にかかる症状があれば、気軽に受診し、精密検査が受診日に受けられる
また受診し検査した結果は、当日に説明している予約、紹介状がなくても受診できる
今後、頭痛専門外来、しびれ外来、めまい外来、パーキンソン病外来を開設予定
- 2) 脳ドックは、脳ドックガイドラインに沿った検査を1日で行い、検査日に結果を説明している
- 3) 回復期リハビリテーション病棟を更に充実させる
 - (1) 片半身が不自由になった人たちにリハビリテーションを行い、日常生活が十分行えるようにする
 - (2) 脳卒中の急性期を過ぎた後のリハビリテーションが最も重要で、急性期を過ぎた患者を積極的に受け入れている
 - (3) 新病院になり回復期リハビリテーション病棟も広く、充実している
 - (4) 1～2回/週程度、医師、理学療法士、看護師、介護士、管理栄養士の合同カンファレンスを開催し患者の回復程度、今後の回復に対する目標設定を行っている

< 診療体制 >

外来診療 藤本医師 火・水・金 午前
徳大医師 第1・第3 木 午後

病棟リハカンファレンス：火、水曜日
リハ合同カンファレンス：適時
回復期リハビリテーション病棟運営会議：1回/月

診療実績



心療内科

医師体制

○非常勤医 鳥海和広



2022年度 診療概要

1)概要

- (1)2009年から認知症等、精神疾患のある方の診療を行っている
- (2)外来および入院患者での紹介患者について診療を行っている
- (3)看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーと連携し、情報を得ながら、生活の質の向上に向けて対応している
- (4)治療困難症例については、精神科(単独科)へ紹介している
- (5)当院にかかりつけの方のみを対象としている
- (6)診療時間は火曜・木曜午前、土曜午前(病棟回診のみ)である

2)地域医療活動

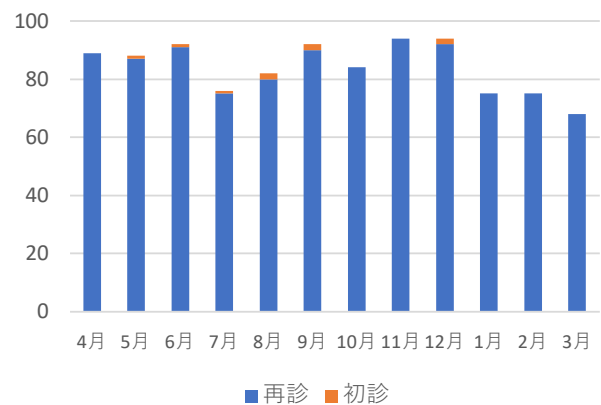
- (1)地域での認知症学習会
- (2)精神科疾患について学習会・講演会

3)今後の課題目標

- (1)ソーシャルワーカー等、コメディカルとの連携強化
- (2)脳神経外科との連携
- (3)認知症への対応強化

診療実績

心療内科患者数 (2022.4-2023.3)



透析科

医師体制

○科長 岸田典子



2022年度 診療概要

<目標>

「笑顔で来院していただける透析室」を目指している

<概要>

- 1) 外来・入院の血液透析患者に対応
- 2) 2022年度は患者数が増加し、月水金2クールと火木土1クール、ほぼベッド満床に近い状態であった
- 3) 介護保険要支援の患者には病院の無料送迎を利用している
- 4) 外科、整形外科、眼科、脳神経外科の併診の患者も対応。他医療機関からの紹介患者にも安全な透析治療を実施
- 5) 火曜日の午前、金曜日は透析当番として勤務

<今後の課題目標>

- 1) 学会や地方会、学習会(Web開催)に積極的に参加する

診療実績

血液透析実績

		件数	合計
血液透析	外来透析	3,068件	3,897件
	入院透析	829件	
OHDF	外来透析	463件	463件

外来（内視鏡室含む）

主な体制

- 師長 大野正代
- 主任 平尾美津代
- 副主任 上田美香 友兼愛子
胡桃麻紀子
- ◆職員数 41名

主な業務

問診聴取・検査説明・入院説明実施
 医師の診察介助・療養指導業務
 二次救急受け入れ業務・中央処置室
 業務・訪問診療



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

外来

<活動目標>

- 1) 接遇改善実施中、意識した取り組みを継続する
- 2) 全員組合員加入を目標に生協活動に取り組む
- 3) 慢性疾患患者の中断対策の実施

<活動報告>

内科：一般・予約外来、禁煙外来、呼吸器専門
 外来、睡眠時無呼吸外来、発達外来
 訪問診療、栄養相談、フットケア
 糖尿病教室、発熱外来
 内科外来カンファレンス 1回/週

心療内科：予約外来

脳神経外科：一般・予約外来

外科：一般・予約外来、便秘外来、ストーマケ
 ア外来、乳がん検診、訪問診療、外来
 化学療法、外来手術
 外科外来カンファレンス 1回/月
 外科病棟カンファレンス 1回/週

整形外科：一般・予約外来、リウマチ教室、外来
 手術生物学的製剤治療、骨粗鬆症予防
 外来
 整形外科病棟カンファレンス 1回/週

眼科：一般・予約外来、各種検査、光凝固治療
 外来手術、往診

内視鏡室

<活動目標>

個々の要求に寄り添う介助で、苦痛、不安の少な
 い検査を安全、確実に「リピーター」を増や
 す

<活動報告>

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染予防
 対策の徹底
 病院機能評価受審を機会にマニュアル見直し
 上部・下部内視鏡検査及びそれに伴う処置

<研究・研究実績・地域への貢献>

院内接遇セミナー 全職員参加
 徳島健康生活協同組合新入職員オリエンテー
 ション 1名参加
 学術運動交流集会 3名参加
 院内防災防火訓練 1回参加
 入職後研修会 2名参加
 院内学習会 6回参加

活動実績

外来全体

患者数	54,684人
新患患者数	2,050人
1日平均患者数	196.5人
救急搬送件数	1,045件
訪問診療件数	252件
外来化学療法のべ件数	82件
外来手術件数	77件

内視鏡件数

	件数	総件数
胃カメラ	経口 294件	1,485件
	経鼻 1,191件	
大腸カメラ	シヨート 81件	149件
	ロング 68件	
緊急内視鏡	上部 7件	24件
	下部 17件	

3 階病棟

主な体制

- 師長 仁木博子
- 主任 大谷眞理子
- 副主任 加納亜未 天野愛美
- ◆職員数 36名

主な業務

整形外科・外科・内科・小児科
 (検査)の入院受け入れ
 周術期患者の看護
 急性期患者の療養



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

整形外科・外科・内科・小児科(検査入院)の患者が安全で安心して周術期を過ごせる看護に取り組む急性期病棟として入院時から退院を見越し、他職種を含めたカンファレンスを行い、治療方針・問題点を共有し、患者・家族の思いを組み合わせながら今後を踏まえた看護を行う

<活動報告>

1)業務改善

月100件の入院があるため、事前に担当看護師を決めておくことでスムーズな入院対応ができた

2)整形医師が1名帰院。手術件数が増加し、骨折患者の受け入れ、午前からの手術も増加したが安全に周術期看護が行えるように努めた

3)病棟で新型コロナウイルスに罹患し、職員が減少した中、感染対応の職員部屋ごとの担当看護師と看護体制を変更し、感染対策に努めた

4)外科カンファレンスの継続

リハビリカンファレンスは整形医師を含めたカンファレンスに変更し、充実が図れた

5)コア会議、職場会議の開催

6)新人教育

新人看護師にひよこ会議を開催
 急変時対応・挿管時の介助・麻薬について・心電図についてなど学習会を行った

<研究・研修実績・地域への貢献>

新型コロナウイルス感染対策で中止となった研修や学習会もあったが、オンラインでの研修や部署単位で行う学習会に参加した

病棟学習会
 院内学習会参加
 健康生活協同組合研修会参加

活動実績

入院件数	1,226件
日当点(平均)	5,909点
平均在院数(月平均)	11.6日
一日患者数	39.9人

主な手術件数

整形外科

骨折観血的手術(骨接合術)	59件
人工関節手術(置換・再置換)	35件
人工骨頭置換術	29件
脊椎固定術	146件
経皮的椎体形成術(BKP)	82件

外科

悪性腫瘍手術(乳)	5件
腹腔鏡下胆のう摘出手術	33件
腹腔鏡下結腸悪性手術	6件
腹腔鏡下虫垂切除術	18件
腹腔鏡下ヘルニア手術	1件
痔核手術	37件
痔瘻手術	5件
鼠径ヘルニア手術	2件
胃瘻造設術	6件

短期滞在手術件数

ヘルニア手術	2件
乳腺腫瘍摘出術	2件
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	2件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	8件

4 階病棟

主な体制

- 師長 元山典代
 - 主任 平島美穂
 - 副主任 近藤文 藤澤誠司
池北美佐子
- ◆職員数 34名

主な業務

地域包括ケア病棟
幅広い患者の受入れ、多職種協
同で病院と地域を一体と考え、
切れ目ない医療介護を提供して
いる



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

地域包括病棟として効率的なベッド運用を行う
民医連看護・介護をモットーに多職種で協力し患者、
家族と関わる
紹介したいと思える病棟を目指し、自部署を楽しく
語れるための風土作りを行う
新人、人材育成を病棟全体で取り組む
研修参加を促進、病棟全体のスキルアップに繋げる

<活動報告>

- 1)全ての患者に対し、入院した翌週に多職種でカンファレンスを行い早期に方向性を見出し、患者、家族の安心に繋がるような療養、退院支援を行った
必要時には感染対策し退院調整会議・家屋調査も行った
- 2)コロナ感染拡大につき、改めて感染対策学習、周知、対応を行った。感染(発熱)病床を有している緩和ケアの患者を積極的に受け入れ、看取りの指針にそって支援した。レスパイト入院や短期滞在入院の受入れも積極的に行った
- 3)コロナ禍で面会制限があり、患者、家族の不安軽減、ケアマネから情報収集や共有のため、前年度から1回/週の電話掛けを継続している
荷物受け渡しの場合へ出向き、情報提供にも努めた
オンライン面会も行っている
- 4)やります宣言！受け持ちスタッフの意識の向上に繋がった
- 5)接遇強化
- 6)毎月コア会議、職場会議を開催し、また新人面談を行い、想いの共有に努めている
- 7)業務改善(人員体制や業務内容)
- 8)多職種での緩和ケアカンファレンス(チーム会の意見も取り入れ)支援の方針や想いの共有を図った
また振り返りから今後の学びを得た
緩和ケアに対する取り組みをアンケート実施、改善し看護介護活動交流集会での発表とした

<研究・研修実績・地域への貢献>

コロナ禍によりWebでの研修となったが積極的に参加
病棟学習会 院内学習会 民医連活動
健康生活協同組合研修 防火訓練 緩和ケアWeb研修

活動実績

入院件数(月平均)	68件
日当点(平均)	3,615点
平均在院日数(月平均)	22.3日
一日患者数	47.9人

短期滞在手術件数

水晶体再建術	30件
内視鏡的大腸ポリープ切除術	81件



5階病棟

主な体制

- 師長 藤井浩三
- 主任 大和真理
- 副主任 森本まゆみ
後藤崇作
- ◆職員数 35名

主な業務

脊椎や大腿骨の骨折、人工関節置換後の患者や脳血管疾患後のリハビリを受ける患者の受入れ



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 1)回復期リハビリテーション病棟としての役割を果たす
- 2)入院して良かったと思われる病棟を目指す
- 3)スムーズな受け入れが出来るよう病棟運営を行う

<活動報告>

- 1)整形外科カンファレンスを隔週で定例開催
- 2)脳神経外科カンファレンスを毎週定例で開催
- 3)毎日、リハビリテーション科とのカンファレンスを開催しロスタイムなく情報の共有が出来た
- 4)リハビリテーション科と連携し患者の現状に合ったリハビリテーションや生活動作の援助や介助を提供

<研修実績・地域への貢献>

- 院内ドレーンチューブ学習会参加
- 全体BLS学習会 2回参加
- 院内骨粗鬆症学習会 1回参加
- 県看護協会新人研修 4回参加
- 全体感染学習会 3回参加
- 全体緊急コール訓練参加

活動実績

		前年比
入院件数(月平均)	68名	+2
日当点(月平均)	3,471点	+11
在院日数(月平均)	61.9日	+11
1日患者数	46名	+4
新入院	23名	-3

<リハビリテーション>

合計患者数(延べ入棟者数)	307人
平均在棟日数	53.4日
FIM利得	22.6点
FIM効率	0.4点/日
FIM運動項目利得	22.2点
FIM運動項目効率	0.4点/日
FIM認知項目利得	0.4点
FIM認知項目効率	0.008点/日

別館4階病棟

主な体制

- 師長 鹿島住子
- 主任 小谷直美
- 副主任 三木さやか
坂林里香

◆職員数 22名

主な業務

療養病棟：主に医療区分2・3の患者、緩和ケア対象者、院内の長期入院患者の受け入れを行う



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

患者・家族の思い要求を大切にし、安心安全の医療・看護・介護を提供し、療養病棟の役割を果たす
患者家族が安心して療養できるよう、また退院できるよう多職種とカンファレンスを行い支援する

<活動報告>

- 1)療養病棟となり、2年目の年で、1日患者数・日当点ともほぼ目標に近づき、経営にも貢献できた
- 2)医療区分2・3の患者以外に、院内の長期入院患者・院内外の緩和ケア対象患者を積極的に受け入れた
- 3)毎週定例で多職種参加の療養カンファレンスを継続して行った。また病棟緩和ケアカンファレンスも適宜行った
- 4)看護介護活動交流集會に、療養病棟の1年半の取り組みをまとめ報告。活動を振り返ることができた
- 5)2名が症例検討会に参加、まとめるにあたり病棟スタッフ全体で関わった
- 6)職場内で倫理・憲法の学習を行った
- 7)毎月接遇の目標を決め、1年間取り組んだ

<研究・研修実績・地域への貢献>

病棟学習会参加：3回
院内学習会参加：10回
院外学習会参加：22回
健康生活協同組合研修会参加：19回

活動実績

入院件数(月平均)	6件
日当点(平均)	2,054点
平均在院日数(月平均)	120.2日
一日患者数	27.3人

中材・OP室

主な体制

- 師長 本浄直美
- 主任 戸村美奈

◆職員数 9名

主な業務

外科、整形外科、眼科の手術
 周術期看護として術前、術後
 訪問、各部門で使用する医療
 器具の洗浄、滅菌、払い出し
 医療器具全般の物品管理



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

安全・安心・安楽の3ワードをもとに、手術環境を整え、患者が安心して手術を受けることのできる手術室看護を提供する
 医師、病棟、外来と連携を図り、患者の状況に応じた対応をする
 日々変化している手術医療に対応できる看護師の力量の向上を図る

<活動報告>

手術室3室
 (うちバイオクリーンルーム1室、眼科手術室1室)
 年間724件の手術を行った(うち43件緊急手術)
 全身麻酔:378件 腰椎麻酔:133件(右表参照)
 外科：腹腔鏡下手術が増加(年間73件)
 特に腹腔鏡下胆嚢摘出術が約1.3倍増加
 腹腔鏡手術は侵襲が少なく、早期退院につながっている
 整形外科：人工骨頭挿入術を含む骨折手術件数が約1.7倍増加(年間99件)
 骨折対応として手術待機が短期間で行えるようにしている
 早期離床が図れ、患者の安楽につながっている
 経皮的椎体形成術は徳島県内でトップの件数(年間78件)
 低侵襲で疼痛緩和が図れるようになっている
 眼科：年間85件の手術を実施
 短期入院で手術を行うなど、患者の要望に添い手術を行っている

<研究・研修実績・地域への貢献>

徳島県連研修会参加：2回
 医療介護活動交流集会参加：1名
 健康生活協同組合研修会参加：3回
 全職員集会参加：7名
 院内学習会参加：4回
 院外学習会：3名
 部署内学習会開催：8回

活動実績

	全身麻酔	腰麻	局所麻酔	合計
外科	93件	52件	62件	207件
(緊急)	24件	2件	2件	28件
整形	258件	73件	58件	389件
(緊急)	3件	6件	6件	15件
眼科	—	—	85件	85件
(緊急)	—	—	—	—
合計	351件	125件	205件	681件
(緊急)	27件	8件	8件	43件

腹腔鏡手術：73件
 脊椎手術：181件
 (うち経皮的椎体形成術78件)

透析室

主な体制

○主任 村上正二郎

◆職員数 10名

主な業務

血液透析(HD,OHDF)

フットケア

医療機器管理



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

医師を中心にスタッフ全員が高い志を持ち、患者ひとりひとりに合わせた透析を行い、透析患者の抱える不安や苦痛を理解し、充実した透析生活を過ごせるようサポートしている
お互いが信頼し合える透析室を目指している

<診療体制>

血液透析業務(入院・外来) ベッド数11床
月、水、金(2クール)
火、木、土(1クール)

<活動報告>

- 1)血液透析業務(入院・外来)
- 2)透析治療方法(HD、OHDF)施行
- 3)透析データ管理
- 4)フットケア
- 5)医療機器管理
- 6)医療機器学習会開催

<研究・研修実施・地域への貢献>

院内学習会参加8回
院外セミナー参加11回
医療機器学習会開催2回

活動実績

透析室実績		件数	合計
血液透析	外来	3,068件	3,897件
	入院	829件	
OHDF	外来	463件	463件

看護部

主な体制

- 部長 野上由起子(看護QI室長兼任)
- 副部長 木下敬子
内藤江美
- ◆職員数 5名

主な業務

管理者の一員として病院運営に参加し、医療生協・病院の方針に基づき看護部門を管理・統括し、看護業務の完遂を図る
看護職員に対する人事・教育・労務管理及び提供されるサービスを統括し責任を負う



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

無差別平等の地域包括ケアの実践ができる
看護介護の質の向上と継続ができる
専門性を発揮しチーム医療を推進する
看護管理者の育成を進める

<活動報告>

院内研修会参加
感染対策 2回
医療安全 2回
接遇 1回
セキュリティー 1回
防災 2回

<看護師長会議の運営>

毎週開催し、各部署の運営や討議、事例検討など情報共有を図った。経営状況の把握と運営では、ベッド管理にも重点的に取り込んだ。また新人教育にも力を注いだ。COVID-19クラスター対応では情報共有を密に行い全部署が協力して終息に至った

活動実績

医療安全管理室

主な体制

○管理者 勝野涼子

◆職員数 1名

主な業務

インシデントアクシデントレポートの集約
再発防止策の検討及び推進、安全に関する職員教育

2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

医療安全に関する一連の取り組みを行うことで患者や利用者の安全、職員の安全を確保する

<活動報告>

- 1)医療安全一連の取り組みを行った
(情報収集、リスク評価、分析、対策の立案、実施、実施後の評価)
- 2)院外情報の収集と管理、病院内への発信を行った
- 3)医療安全のために必要な職員間の調整や各職場への援助、関連する委員会との連携を行った
- 4)医療安全に関する研修を実施した
- 5)医療安全に関する委員会の運営を行った
- 6)健康生協、民医連の安全管理委員会へ参加した
- 7)医療事故調査・支援センターへの報告を行った

<研究・研修実績・地域への貢献>

- 安全に関わる研修会の開催
- ・新入職員オリエンテーション「安全・安心の確保」
 - ・新人看護師集合教育「医療安全の基本」
 - ・全体学習会
「正しい確認」
「医療放射線の安全管理」
 - ・BLS訓練
 - ・人工呼吸器学習会
 - ・オープンマスク学習会

活動実績

- ①インシデント 1059件、アクシデント 20件
- ②6月医療事故防止月間
テーマ：患者確認
スローガン
「教えてください フルネーム
見せてください ネームバンド
チームで防ごう患者誤認」
- ③医療安全地域連携相互診断
2月14日 東徳島医療センター
- ④会議・委員会
医療安全管理対策委員会
医療安全カンファレンス
注射内服小委員会
医療安全推進担当者会議

看護QI室

主な体制

- 室長 野上由起子
- 師長 川上あき子

◆職員数 2名

主な業務

感染管理
糖尿病看護

2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

-感染管理-

<活動目標>

- 1)医療関連感染の予防及び低減
- 2)病院感染管理組織の整備と充実
- 3)アウトブレイク時の対応

<活動報告>

- 1)感染対策委員会 毎月1回(計12回、臨時10回)
- 2)感染対策チーム会 毎月1回(計11回)
- 3)感染対策推進リーダー会毎月1回(計10回)
- 4)病院新型コロナウイルス感染対策会議(計78回)
- 5)法人新型コロナウイルス感染対策会議(計33回)
- 6)院内ラウンド 2週1回
- 7)病院全体学習会2回
7月「感染対策のいろいろ～食中毒・夏の感染症など～」
287名参加
11月「個人防護具着脱訓練・吐物処理」
192名参加
- 8)法人内ラウンド
8月 デイケア
3月 老健施設

<地域への貢献(講師)>

- 10月 徳島県介護実習・普及センター
「感染対策の基礎知識」
- 12月 第30回県連看護介護活動研究交流集会
「コロナ禍の3年間で振り返る」未発表

活動実績

感染対策加算カンファレンス

連携先	開催日
徳島大学病院	12月5日 12月6日
東徳島医療センター	7月4日 10月3日 12月5日

-糖尿病看護-

<活動目標>

糖尿病患者および家族に対して、質の高い看護を実践する。糖尿病ケアサポートチーム、糖尿病看護チーム、医療スタッフ、介護スタッフと連携をもち指導・相談・院内外での研修活動により糖尿病ケアの質の向上を図る

<活動報告>

- 1)糖尿病教育入院、血糖コントロール入院、外来での療養支援
- 2)インスリン注射、GLP-1受容体作動薬注射指導
- 3)血糖自己測定指導
- 4)糖尿病教室の開催 第1第3水曜(計22回開催)
- 5)外来・透析患者、教育入院患者へのフットケア
(1) 外来フットケア (計370件)
(2) 透析室フットケア (計299件)
(3) 教育入院フットケア (計30件)
- 6)糖尿病ケアサポート委員会 1回/月(計10回)
- 7)糖尿病看護チーム会 1回/月(計6回)
- 8)11月11日糖尿病全体学習会開催、講師「災害時の糖尿病療養支援」33名参加
- 9)糖尿病患者会(たんぼぼ会)活動支援
新型コロナ流行のため未開催
外来にて糖尿病協会月刊誌「さかえ」配布
- 10)11月世界糖尿病デー啓発活動
(1) 外来ホールブルーライトアップ
(2) 外来ホールにて啓発チラシ配布
- 11)血糖測定器点検 7月～9月

活動実績

糖尿病看護

外来フットケア	370件
透析室フットケア	299名
教育入院	31件
内クリニカルパス適用	16件

検査科

主な体制

- 技師長 吉野貴子
- 主任 小川由紀子
- 副主任 澤崎由季
- ◆職員数 9名

主な業務

生化学・免疫検査、血液検査、
輸血検査、一般検査、細菌検査、
生理検査、病理検査



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 1)いつでも迅速で正確な検査を提供します
- 2)ミスのおこらないシステムを構築します
- 3)常に親切で丁寧な対応を心がけます

<活動報告>

前年度末に退職1名、年度内に産休育休者1名、さらにコロナ禍の職員の出勤制限など、体制的に非常に厳しい1年だった

- 1)医学部5年生病院実習で検査科実習に4名受入
- 2)研修医腹部エコー研修を2名受入
- 3)技師エコー研修を開始(体表エコー・心エコー)
- 4)血液ガス分析装置更新
- 5)トロポニンI測定開始
- 6)生化学分析装置更新
- 7)DM教育入院でのCVR-RとABIと負荷心電図の検査説明と検査前の安静管理を開始
- 8)術中神経モニタリングSEPを追加導入
- 9)検査科職場会議の中での学習会の実施 月1回定例学習テーマ
 胆嚢癌の2症例
 心嚢液について
 心アミロイドーシス
 便中カルプロテクチン
 全身MRI「DWIBS」と「PET-CT」の比較
 サイトメガロウィルス感染症について
 PBCについて
 ノロ吐物処理トレーニング
 ホルター心電図、アーティファクトの原因について
 デウインター心電図について
 猫ひっかき病について
 たこつぼ型心筋症
- 10)検査科内生理検査小報告会の実施 開催実績24回

<研究・研修実績・地域への貢献>

職能団体主催等の院外研修会参加 のべ114回

活動実績

総検査件数 456,196件 前年比 103%

外来	290,443件
入院	83,590件
健診	82,163件

検体検査件数 384,395件 前年比 104%
(生化・免疫血清・血液・一般)

CoV-19定量	5,725件
クロスマッチ	273件

生理検査件数 15,423件 前年比 106%

心電図	7,755件
ホルター心電図	134件
血圧脈波	326件
簡易スパイロ	261件
呼気NO	116件
簡易オージオ	2,856件
脳波	45件
神経伝導検査	44件
簡易SAS	23件
PSG	5件
振動障害検査	6件
各種超音波検査	3,797件
術中神経モニタリング	34件

細菌検査件数 6,660件 前年比 94%

一般菌塗抹	1,160件
一般菌培養	3,028件
一般菌感受性	764件
抗酸菌塗抹	190件
迅速検査	193件

病理検査件数 407件 前年比 96%

内視鏡生検	98件
ポリペクトミー	150件
外科手術材料	111件
整形外科手術材料	13件
眼科手術材料	2件
術中迅速検査	4件
乳腺針生検	25件
その他生検	2件
骨髄穿刺液	2件

放射線科

主な体制

- 技師長 岩野晃明
- 主任 ー
- 副主任
- ◆職員数 7名

主な業務

- 一般撮影、MRI撮影、CT撮影
- マンモグラフィ撮影
- TVレントゲン撮影、大腸CT撮影
- 骨密度撮影、術中イメージ
- 遠隔読影送受信



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 最先端の画像撮影技術、読影力を身に付け患者さんにより良い医療を提供する
- 医師と画像情報を共有することで安全、安心な医療に取り組む
- 救急性のある症例については医師に即座に報告を行う
- 被曝低減への取り組み
- 退職に伴い新たな人材確保とその育成

<活動報告>

- 1)放射線科主催、医師・研修医・放射線技師・検査技師による画像読影検討会(1回/週)
- 2)胸部健診画像ダブルチェック
- 3)医師に対する緊急画像報告
- 4)遠隔読影チェック
- 5)呼び出し時における画像情報の医師との共有
- 6)新たに導入した画像解析ソフトの習得と活用
- 7)消化管先進画像診断研究会世話人
- 8)中四国スクリーニングCTC研究会世話人

<研究・研修実績・地域への貢献>

- 学会研究会発表 1件
- 学術講演 4件
- 原著論文 1件

活動実績

検査名	件数
CT	4,653
大腸CT	237
MRI	2,558
一般撮影	12,680
骨密度	2,964
マンモグラフィ	610
胃透視	187

リハビリテーション科

主な体制

- 技師長 勝野涼子
- 主任 鎌田大志
松本由紀子
島田美知恵
- ◆職員数 40名

主な業務

- 理学療法：入院、外来
- 作業療法：入院、外来
- 言語聴覚療法：入院



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

安全・安心で信頼出来る医療・介護の実践を目指し
高い医療技術を有するセラピストの育成に努める

<活動報告>

- 1) 病棟運営会議、カンファレンス、退院調整会議
サービス担当者会議に参加した
- 2) 症例検討会を実施した
- 3) 職場学習会を実施した
- 4) 糖尿病教室に講師派遣を行った
- 5) 新人教育プログラムを更新し実施した
- 6) 人材確保として、オンラインで就職説明会を実施した

<研究・研修実績・地域への貢献>

- 1) 第50回四国理学療法士学会
- 2) 第1回徳島県臨床推論研修大会
- 3) 徳島県作業療法士協会 教育部共通研修
「事例検討・報告会」
- 4) 臨床実習指導者講習会

活動実績

<処方件数>

整形外科	件数
上下肢骨折(OP・保存含む)	126
人工関節置換術後	40
脊椎圧迫骨折(BKP・保存含む)	108
骨盤骨折	17
下肢切断	3
肩腱板断裂	3
頸部疾患(CSM、OPLL他)	31
腰部脊柱管狭窄症(OP・保存含む)	88
レスパイト	5
その他運動器疾患(OA・蜂窩織炎等)	101

内科・総合診療科

肺炎	60
その他呼吸器疾患(COPD・肺気腫等)	24
DM教育入院	16
心不全	42
レスパイト	12
その他内科疾患	127

外科

外科OP後(開腹・開胸術後等)	28
緩和ケア	5
その他外科疾患(熱傷等)	13

脳神経外科

脳血管疾患	118
レスパイト	5

<回復期リハビリテーション病棟>

合計患者数(延べ入棟者数)	307人
平均在棟日数	53.4日
FIM利得	22.6点
FIM効率	0.4点/日
FIM運動項目利得	22.2点
FIM運動項目効率	0.4点/日
FIM認知項目利得	0.4点/日
FIM認知項目効率	0.008点/日

食養科

主な体制

○科長 舟本優子

◆職員数 3名

主な業務

入院患者の栄養管理
外来・入院患者への栄養相談業務



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 1)専門性を活かし、食を通じて疾患の治療に関わる
- 2)多職種と情報共有し、患者サービスの向上を目指す

<活動報告>

- 1)濃厚流動食、栄養補助食品の価格改定があり
経管栄養剤の種類変更を行った
- 2)各委員会やチーム会の活動に積極的に参加
学習会、ポスター作成など等を担当した
- 3)第45期中四地協栄養部門代表者会議の事務局と
全日本栄養委員を担当、定期的な会議に参加した

<研究・研修実績・地域への貢献>

- 1)コロナ禍のため、患者会、班会などへの参加なし
- 2)健康と生活「簡単クッキング」連載(6回)
- 3)オンライン研修への参加
緩和に関する地域連携カンファレンス全5回
その他Webセミナーの視聴など

活動実績

外来栄養相談件数	165件
入院栄養相談件数	616件
糖尿病教育入院栄養相談件数	17件
化学療法栄養相談	70件

入院患者食数	161,335食
特別食加算割合	28.0%

嚥下造影検査	45件
栄養管理情報提供書	70件

2022年度医療評価調査 7.0点/10点
(前年5.3点)

薬剤科

主な体制

- 科長 生田佳津
- 主任 大谷知子

◆職員数 9名

主な業務

医薬品管理業務
調剤業務、DI業務
服薬指導業務、病棟薬剤業務



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

病棟業務と調剤業務の連携を強化する

<活動報告>

- 1) 新型コロナワクチンの管理
- 2) 新型コロナウイルス感染者に対する治療薬の投与
(説明、同意書の確認など)
- 3) 医薬品の供給困難に対する対応

活動実績

【各種算定件数】	件数
薬剤管理指導料1	952
薬剤管理指導料2	703
退院時薬剤情報管理指導	245
麻薬管理指導加算	35
無菌製剤処理料1	150
無菌製剤処理料2	1,166
病棟薬剤業務実施加算	4,719
薬剤総合評価調整加算	55
薬剤調整加算	46

デイケア室

主な体制

- 主任 山下愛実
- 副主任 森優子

◆職員数 14名

主な業務

リハビリテーション
送迎、健康チェック
生活相談



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 1)利用者一人一人の目標に合わせたリハビリテーションに取り組む
- 2)利用者・利用者家族の満足度が向上している
- 3)利用者の身体機能が安定し、在宅生活が安心・安全に送れるよう職員一人一人が考えて行動できる
- 4)目標達成に向けて全員が意識でき、運営が安定している

<活動報告>

- 1)毎月定期的に職場会議、カンファレンスを実施
- 2)毎月職場学習会を開催
- 3)2022年7月より訪問リハビリテーション開始

活動実績

デイケア

稼働日数	259日
(内訳)	
平日	243日
祝祭日	16日

延べ件数	要介護	860件
	要支援	225件
	計	1,085件

延べ利用者数	要介護	5,706名
	要支援	1,146名
	計	6,852名

一日平均利用者数	26.5名
----------	-------

新規利用者数	要介護	24名
	要支援	8名
	計	32名

訪問リハビリ

延べ件数	44件
延べ回数	246回
延べ単位数	695単位

新規利用者数	11名
--------	-----



健診センター

主な体制

○センター長 増田容子

◆職員数 7名

主な業務

各種健康診査
予防接種(15歳以上)
特定保健指導



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

信頼される健診に取り組む
健診結果の報告を迅速にし、精密検査が必要な方への
フォローを行う

<活動報告>

- 1)日曜日健診 6回/年実施 計 71件
- 2)夜間健診 7月9回実施 計400件
- 3)レディース健診 1回/月実施 計157件
- 4)診療所で受けられない健診ツアー 4回/年 計17件
- 5)大腸CT 計9件
- 6)プレミアム脳ドック 5件
- 7)スマート脳ドック 41件
- 8)簡易脳ドック(国保脳ドック含む)135件
- 9)新型コロナウイルスワクチン接種数 2,609件

活動実績

利用延べ件数 14,556件

主な内訳

徳島健康生協組合員健診	1,296件
特定健診	1,036件
事業所健診	5,029件
自治体健診	1,414件
予防接種	4,803件
特定保健指導	31件

地域連携相談室

主な体制

- 室長 佐々木清美
- 主任 長田聖

◆職員数 7名

主な業務

病診連携業務、訪問活動、入院患者の退院調整
退院後の生活・医療費・生活費・公的制度などに関する相談援助



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

2022年度スローガン：大変な中でもキラリと光る頼りになる地域連携相談室
地域連携の中心的な役割を果たす
患者、利用者、組合員が安心して生活・療養できる相談支援活動を行う
健康権・生存権を守る取り組みを行う

<活動報告>

日本医療機能評価機構 医療対話推進者養成セミナー参加
平和活動交流集会参加
院内カンファレンス・退院前カンファレンスなどに積極的に参加
社会福祉士の人材確保として、徳島県・香川県・高知県・岡山県・兵庫県の大学へ訪問し、病院の取り組み・特徴を説明
中四SW代表者会議へ参加

<研究・研修実績・地域への貢献>

フードバンクとくしま 越年支援参加

活動実績

相談業務	件数
4月	669
5月	707
6月	775
7月	756
8月	719
9月	783
10月	891
11月	802
12月	853
1月	846
2月	786
3月	879

紹介数

入院	件数
4月	42
5月	30
6月	28
7月	33
8月	39
9月	29
10月	29
11月	38
12月	17
1月	34
2月	36
3月	33

外来	件数
4月	61
5月	49
6月	48
7月	46
8月	59
9月	46
10月	44
11月	46
12月	54
1月	50
2月	45
3月	85

医事課

主な体制

- 課長 領田佳孝
- 課長補佐 常陸朗広
- 主任 福田弘子 澤田孝美
- ◆職員数 20名

主な業務

総合受付業務・入院案内業務・
会計業務
レセプト請求業務



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 1)接遇の向上に努め、患者さんが安心してかかれる窓口を目指す
- 2)保険請求のプロフェッショナルであることを自覚し各々の知識向上、得た知識の共有化を図る
- 3)運営会議などで積極的に提案を行い、他職種と情報共有し、増益に努める

<活動報告>

各病棟運営会議：1回/月
外来運営会議：1回/月
患者サポート会議：1回/週
ベッド調整での情報提供および提案：1回/日
その他各種委員会や会議・カンファレンスでの情報提供

活動実績

※レセプト件数

	外来件数	入院件数
4月	3,193	317
5月	3,184	301
6月	3,360	317
7月	3,314	305
8月	3,677	315
9月	3,499	306
10月	3,322	311
11月	3,484	313
12月	3,631	253
1月	3,364	299
2月	3,076	306
3月	3,385	322

庶務課

主な体制

○課長 佐藤史也

◆職員数 15名

主な業務

庶務業務全般
(経理・労務・用度・施設・電話交換)
リネン管理
組合員無料送迎



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

- 1)医療生協組合員無料送迎の安定的な運用と病院経費の見直しを行った
- 2)SPDシステムを活用した診療材料の価格交渉を行い、診療材料費を見直した
コロナ禍での衛生材料の確保に重点を置き、安全に医療が行えるよう尽力した
- 3)2022年度は原材料の高騰により、医療材料費の削減より、価格上昇を押さえる事で大変な年度だった
使用頻度が高い医療材料やペーパー類など平均5～10%の値上げ提示があった
試算では年間200万円ほどの値上がり予定だったが、使用材料の変更や仕入れ先の見直しを行い、120万円ほどの上昇に抑える事ができた
- 3)医療生協組合員の送迎対応を拡充し、安定的な運用を行った
- 4)課内で費用についての共有を行い、削減提起し実行した

活動実績

医療生協組合員送迎実績

2,613件(10.7件/1日平均)(対前年86.0%)



医局事務課

主な体制

- 課長 平岡ゆみ
- 主任 外山玲奈

◆職員数 6名

主な業務

診断書作成支援・医師の労務管理
医局の運営支援・病院図書室管理
退院サマリー管理・全国がん登録
民医連QI指標・医師研修に関する
業務・学生実習受け入れ



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

<活動目標>

- 1) 医師の業務軽減に努め、他部署との連携を深める
- 2) 医局関連会議等の事務局を担い、医局の円滑な運営を図る
- 3) 全国がん登録の登録・提出を適切に行う
- 4) 充実した医師研修を送れるよう支援する
- 5) 研修医確保のための宣伝活動を行う

<活動報告>

- 1) 各種診断書・意見書の作成支援
- 2) 医師の勤務体制(日当直体制・週間体制)の整備等、労務管理
- 3) 医局会議、全科カンファレンスの事務局
- 4) 医師の出張、各種申請の代行業務
- 5) 学会や論文発表等における症例データの収集、統計作成
- 6) 認定施設指定継続に伴う諸手続き
- 7) 病院購入図書の発注、登録、図書室の管理
- 8) 医師研修に関する各種手続き
- 9) 臨床研修費補助金に係る申請・実績報告
- 10) 医師臨床研修年次報告
- 11) 研修医スケジュール作成と管理
- 12) 協力型臨床研修病院との協議
- 13) 1年目研修医1名受け入れ
- 14) 徳島大学病院2年目研修医1名受け入れ
- 15) 医師臨床研修マッチング採用試験
- 16) 医師研修委員会の事務局
- 17) 医師研修管理委員会の開催
- 18) 卒後臨床研修プログラム説明会の開催
- 19) 徳島大学指定学外実習の受け入れ
- 20) 医学生実習の受け入れ
- 21) 卒後臨床研修の第三者評価受審準備
- 22) 徳島県臨床研修連絡協議会への参加
- 23) 全国がん登録
- 24) 民医連QI指標作成

活動実績

書類下書き件数

書類名	件数
介護保険主治医意見書	590
障害者総合支援法医師意見書	17
生活保護 医療要否意見書・ 病状調査票 等	951
訪問看護指示書	
特別訪問看護指示書	971
訪問リハビリテーション指示書	
自賠責診断書	210
自立支援医療(更生医療)意見書	
腎臓機能障害	53

全国がん登録(2021年分) 168件

徳島大学病院のたすき掛け研修医受け入れ
1名(内科25週間、眼科4週間)

徳島大学指定学外実習の受け入れ 4名



システム課

主な体制

- 課長 近藤慶卓
- 主任 佐藤博隆

◆職員数 4名

主な業務

医療情報管理システムの保守管理
ハードウェア及びネットワーク
のトラブル対応



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

【職場方針】

- 1) トラブルに迅速な対応をすることで、各部署の業務効率につなげていく
制度改定へのシステムの迅速に対応していく
- 2) 業務の共有や組織方針を確認しシステム関連での各部署との連携に努めていく
- 3) セキュリティに関しての情報収集と検討をすすめ、安定した経営ができるよう提言等していく

活動実績

- 1) 電子カルテシステムの保守・障害対応
- 2) ホームページの更新
- 3) 患者調査票作成・提出
- 4) 手術症例報告
- 5) システム・HP委員会事務局
- 6) 院内イントラネットシステム保守
- 7) 施設LAN設営調整
- 8) パソコン・プリンタ修理
- 9) プリンタ消耗品在庫管理・購入



事務部

主な体制

- 事務長 加賀美憲司(事務部長兼務)
- 事務次長 高原由江
近藤慶卓(システム課長兼務)
- ◆職員数 3名

主な業務

院長を補佐し、病院の方針及び基本計画を策定、各職場長を指揮する
事務部門の方針及び基本計画を作成し職務の遂行を指揮する



2022年度の職場目標、主な活動、総括方針等

〈活動目標〉

病院の方針・基本計画を立案し実践する

〈活動報告〉

- 1)各基幹会議の運営、各部門運営のサポート
進捗簡易・方針や課題の共有
三役会議 1回/週
管理会議 2回/月
職場責任者会議 1回/月
事務部・診療技術部責任者会議 1回/月
管理室打ち合わせ 2回/月
- 2)活動計画方針、予算計画の作成とその達成に基づく遂行と進捗管理
- 3)事務部打ち合わせ 1回/週
各事務部門の問題提起と討議
人事課題の検討
経営に関する討議
各担当業務の共有と相談

活動実績

IV

各委員会 活動実績



感染対策委員会

目的

病院感染管理の方針と関連する提案事項の諮問・決定機関としての役割を担う
感染の予防と低減のために提唱者の役割を努め、承認された感染防止対策を推進することを目的に、ICT・感染対策推進リーダー会と連携して活動を行う

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：野上由起子(看護部)

委員：松田(医局)、鈴木(医局)
加賀美(事務部)、小川(検査科)
生田(薬剤科)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会12回、臨時12回

- 1) 薬剤サーベイランス
薬剤の適正使用、広域抗菌薬の長期投与など不適切な使用の有無
- 2) 検査サーベイランス
耐性菌の検出状況(持ち込み、感染)、不適切な使用による薬剤耐性菌の有無
- 3) カテーテル関連血流感染サーベイランス
ターゲットサーベイランス実施し状況把握
病棟ラウンドを実施し介入
マニュアルの見直し
- 4) 院内学習会の開催(2回)
- 5) 感染防止対策加算に関わる地域連携カンファレンスへの参加(6回)
- 6) 徳島県感染症発生動向調査情報の発信(毎週)
- 7) コロナ感染症対策会議(毎週)
- 8) 法人内事業所コンサルテーション
- 9) 手術部位感染対応
- 10) COVID-19クラスター対応
- 11) 感染対策向上加算カンファレンス参加

医療ガス安全管理委員会

目的

医療ガス(酸素、麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気)の設備安全管理を図り、患者の安全確保を目的とする

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：佐藤史也(庶務課)、石崎泰人(庶務課)

委員：生田(薬剤科)、加賀美(事務部)
野上(看護部)、木下(外来)
内藤(3階病棟)
勝野(医療安全管理室・リハビリテーション科)
村上(透析室)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会1回

- 1) 医療ガス設備の点検、修理
- 2) 保守業務の委託検討
- 3) 院内講習会(3月)の開催
取引業者による医療ガス講習会の開催

【内容】

病院における医療ガスの基本的知識
医療ガスに関する事故例と原因

倫理委員会

目的

職員が行う医療行為及び医療分野の研究について、倫理指針等に沿って審査する
日常診療の中で起こり得る様々な倫理問題について、患者の人権を擁護する立場から協議し、倫理的配慮を図る

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：加賀美憲司(事務部)

委員：野上(看護部)、木下(看護部)
勝野(医療安全管理室・リハビリテーション科)
島(臨床心理士)
大久保(健康生協組合員)
掘金(徳島合同法律事務所弁護士)

2022年度 活動内容

開催実績：1回

- 1)医療専門職が学会等に発表する医療活動に関して、医師、看護師ほか委員による倫理審査を行った

安全衛生委員会

目的

職場の安全と職員の健康を確保すると共に、快適な職場環境の形成を促進し、健康で働きやすい職場づくりに必要な課題を協議提案する

委員会メンバー

委員長：加賀美憲司(事務部)

事務局：河井紗代子(健診センター)

委員：村野(医局)
勝野(医療安全管理室・リハビリテーション科)
労働組合代表者 3名

2022年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)健康診断の状況確認
定期健康診断、採用時健康診断
特殊健康診断、夜勤者健康診断
VDT健診、腰痛問診など
- 2)予防接種の状況確認
HBワクチン対象者から希望者に接種
インフルエンザワクチン全職員に接種
- 3)職員ストレスチェック問診票の回収・分析
など『高ストレス』結果が出た職員の
産業医面談調整
- 4)職場巡視
- 5)学習会の企画
- 6)3 6 協定違反、夜勤協定違反、事故報告と
改善協議・労災事故発生状況の把握、
産業医面談の調整

医療安全管理対策委員会

目的

徳島健生病院における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために必要な事項を定める

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：加賀美(事務部)、野上(看護部)
大野(外来)、内藤(看護部)
生田(薬剤科)、村上(透析室)

2022年度 活動内容

開催実績：10回

- 1) 病院内の問題点の把握、事故分析・予防対策の検討
- 2) 医療事故再発防止策の検討、マニュアルの見直しと作成
- 3) 医療安全管理の方針・指針を検討
- 4) 医療事故防止のための啓発・教育・広報活動
- 5) 職員研修の実施
全体研修
前期「正しい確認」
後期「医療放射線の安全管理」

注射内服小委員会

目的

注射、内服に関する安全対策を推進する役割を担う
インシデント・アクシデント報告の問題点を把握し、事故分析と再発予防策を検討する
院内での周知を行う

委員会メンバー

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：生田(薬剤科)、太田(3階病棟)
木下(4階病棟)、酒井(5階病棟)
楠瀬(別館4階病棟)、岸下(外来)

2022年度 活動内容

開催実績：9回

- 1) 医療事件事例の検討・分析を行い対策を立て職場で周知している
- 2) 看護師に対して注射内服に関する業務の自己点検を毎年行い、マニュアルの遵守に努めている
- 3) マニュアル等の見直しと改定
- 4) 日本医療機能評価機構発行
医療安全情報の共有
注射内服に関するインシデント・アクシデント報告：189件
- 5) 混注時、投与時に注意の必要な薬剤一覧を作成

化学療法委員会

目的

安全・安心な化学療法を提供する

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：生田佳津(薬剤科)

委員：美馬一(医局)、美馬惇(医局)
吉田禎(医局)
平尾(外来)、友兼(外来)
田川(外来)、山橋(外来)
林(外来)、宮本(食養科)
領田(医事課)

2022年度 活動内容

開催実績：9回

- 1)2022年度化学療法稼働実績(入院・外来含)
生物学的製剤 255件
化学療法 150件
- 2)新規レジメン登録：9件
- 3)外来化学療法・連携充実加算に関わる研修会の開催(Web)
日時：3月17日 18：30～19：30
内容：閉経後ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌の周術期薬物療法

健診プロジェクト委員会

目的

健診の取組みを確認し、信頼される健康診断が提供できるよう関連各部署、職種間で問題点や改善点を検討、協議する
各部署間での周知、取組みの調整を図るとともに病院管理部に提案していく

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：増田容子(健診センター)

委員：近藤(事務部)、吉尾(検査科)
美馬(外来)、池村(放射線科)
上田(外来)、河井(健診センター)
伊賀(健康づくり事業部)

2022年度 活動内容

開催実績：11回

- 1)前月の健診センター実績と特徴点などを報告
- 2)当月の健診進捗状況の確認
- 3)健診をめぐる問題点や課題を協議、検討し、提案する

システム・HP委員会

目的

電子カルテシステムを中心とした医療情報システム管理・ホームページなどの管理を行う体制を確立する

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：佐藤博隆(システム課)

委員：高原(事務部)、近藤(事務部)
神野(システム課)、菅(システム課)
岩野(放射線科)、薬剂科(生田)
吉野(検査科)、宮本(食養科)
鎌田(リハビリテーション科)
河井(健診センター)
大野(外来)、領田(医事課)
大和(5階病棟)
笠木(医局事務課)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会10回

- 1)電子カルテのシステム変更の連絡、周知
- 2)オンライン資格確認導入
- 3)ホームページの修正
- 4)セキュリティ学習を開催(4月、1月)し
情報セキュリティの重要性を説明
- 5)VPN器機の脆弱性対応
- 6)院内のwifi機器のパスワード変更

診療情報管理委員会

目的

適切な診療記録の管理を行う体制を確保

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：笠木瑞穂(医局事務課)

委員：大野(外来)、大和(5階病棟)
岩野(放射線科)、薬剂科(生田)
吉野(検査科)、宮本(食養科)
鎌田(リハビリテーション科)
藤野(健診センター)
高原(事務部)近藤(事務部)、領田(医事課)
佐藤(システム課)、菅(システム課)
神野(システム課)

2022年度 活動内容

開催実績：3回

- 1)退院サマリーの質的監査の報告(2件/月)
医局会議でも報告
- 2)長期署名システムの運用について
病歴に提出される「スキャン済み文書削除
申請書」の統計(文書別・部署別)を作成し、
当該部署に配布
- 3)診療録管理基準の一部改訂

減点査定委員会

目的

病院における減点・返戻査定を精査し、
保険診療請求業務を円滑に行う

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：福田弘子(医事課)、澤田孝美(医事課)

委員：元山(4階病棟)、平尾(外来)
松本(リハビリテーション科)
澤崎(検査科)、大谷(薬剤科)

2022年度 活動内容

開催実績：12回

- 1)増減点連絡書を基に減点査定の内容・傾向について報告した
- 2)必要に応じて再審査請求を行った
- 3)査定対策について関係部署に情報提供を行った

接遇倫理委員会

目的

徳島健生病院理念に基づき、接遇倫理の獲得と
向上を目的とする

委員会メンバー

委員長：本浄直美(中材・OP室)

委員：木下(看護部)、佐藤(外来)
広瀬(3階病棟)、河野(別館4階病棟)
長田(リハビリテーション科)
村上(透析室)、池田(医事課)
前田(5階病棟)、高橋(4階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績 10回

- 1)5月 接遇倫理委員会news第5号
1月 接遇倫理委員会news第6号 発行
- 2)6月を「あいさつ月間」とし、委員が自部署の朝礼時に声かけを週1回程度実施した
委員のいない部署は職責者に声かけの依頼をし、意識して取り組めるよう周知した
月間終了後は各部署に確認を行った
- 3)10月に院内ラウンドを実施し、身だしなみや接し方・言葉づかいなどをチェックした

薬事委員会

目的

医薬品に関わる情報を集約分析し、医薬品の有効性、安全性、経済性を総合的に把握し管理することを目的とする

委員会メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：生田佳津(薬剤科)

委員：鎌田(医局)
大野(外来)、領田(医事課)

オブザーバー：桑原(とくしま健康サポート)
柳本(とくしま健康サポート)
藤野(四国医療事業協同組合)

2022年度 活動内容

開催実績：12回

- 1) 試用申請薬についての検討：11剤
(内服薬：5剤、外用薬：2剤、注射薬：4剤)
- 2) 採用薬の見直し
(1) アドレナリン製剤をシリンジに変更
(2) 第四世代セフェム（注射）を変更
(3) 副腎皮質ステロイド剤（外用薬）を整理
- 3) 後発品の検討、切り替え：15剤
(1) 後発品使用割合：87.9% (年間平均)
(2) 12月より後発医薬品使用体制加算1にランクアップ
- 4) 新薬評価：2剤
(1) エムガルティ皮下注120mgシリンジ
(2) リフヌア錠45mg
- 5) 医薬品の出荷停止や出荷調整など、供給の問題が継続しており、代替薬の検討などを随時行った

輸血委員会

目的

適正かつ安全な輸血療法が実施されているか、管理と指導を行う

委員会メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：小川由紀子(検査科)

委員：淡井(4階病棟)、湊(3階病棟)
里吉(薬剤科)

2022年度 活動内容

開催実績：6回

- 1) 輸血用血液製剤(赤血球液製剤・血小板製剤・新鮮凍結血漿・自己血)および血漿分画製剤(アルブミン製剤)の使用状況をチェックし、適正基準を満たしているか確認
- 2) 血液型・不規則抗体・クロスマッチの件数、血液型別および診療科別の輸血単位数の確認、輸血前後検査、廃棄状況、輸血副作用をまとめ安全な輸血療法がなされているか確認
- 3) 徳島県赤十字血液センター職員の委員会参加による輸血情報提供
- 4) 新人看護師の輸血製剤取り扱い学習(4月新人研修)
- 5) 輸血拒否と免責証明書を文書管理で選択できるようにした
- 6) 2年目看護師、師長を対象とした血液センターWebセミナーを数ヶ月の間シリーズで視聴し学習を行った
- 7) 輸血伝票の見直し・変更
- 8) 日本輸血細胞治療学会、徳島県合同輸血療法委員会のアンケート実施(懇談会などが中止のため)

NST委員会

目的

栄養アセスメントを行い入院患者の栄養状態を把握する
栄養管理が必要な患者に対して、適切な栄養投与方法を検討し栄養状態の改善に努める
職員に対して学習会を開催することで、栄養療法への理解を深める

委員会メンバー

委員長：岸田典子(医局)

事務局：舟本優子(食養科)、宮本志保(食養科)

委員：森本(3階病棟)、板東(4階病棟)
飯田(5階病棟)、豊崎(別館4階病棟)
鎌倉(リハビリテーション科)
小林(健生歯科)

2022年度 活動内容

開催実績：10回

- 1) コロナ禍のため全職員対象とした学習会等の開催はできなかったが、委員会内で動画サービスを利用した学習や委員会メンバーが講師となり学習会を実施した
5月「食欲のメカニズム」管理栄養士
7月「完全側臥位法」言語聴覚士
9月「高齢者の食事介助、あるある」
ネスレwebセミナー
2月「誤嚥性肺炎をおこさないポイント」
管理栄養士
- 2) 入院時に身体計測を行うことで、低栄養リスク患者に対して速やかに栄養介入ができるようになった
- 3) 手術前や寝たきりの患者に対し、推定身長・推定体重を算出するため身体測定を実施した
- 4) 食欲不振患者に対し、給食で対応可能な食品のメニュー表を用い嗜好調査を実施

給食委員会

目的

入院患者への食事提供と栄養管理、ならびに患者への食事相談(嗜好調査等)を適切に行う
また患者全体への健康食の啓蒙活動に取り組む

委員会メンバー

委員長：岸田典子(医局)

事務局：舟本優子(食養科)、宮本志保(食養科)
田尻有紀(食養科)

委員：鹿島(別館4階病棟)
津村(委託会社)、鈴木(委託会社)
三間(委託会社)、矢野(委託会社)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会12回

- 1) 月報報告(食数、材料費等)、検便結果報告
- 2) 検食簿、虹の箱、患者ききとり等からの意見について検討を行い、食事内容の改善を図った
- 3) 誤配膳や異物混入等の事故報告から、安全な食事提供のため情報共有、業務改善に努めた
- 4) 味付けの見直しや新メニュー、行事食の内容等を検討し、食事内容の向上を図った
- 5) 行事食の実施 17回
委託会社主催のイベント食・季節のフルーツの提供実施 19回

臨床検査適正化委員会

目的

臨床検査の管理・運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期することを目的とする

委員会メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：小川由紀子(検査科)

委員：加賀美(事務部)、野上(看護部)
吉野(検査科)

2022年度 活動内容

開催実績：2回（1回は書面開催）

- 1) 臨床検査の精度管理等に関する事項
 - (1) 外部精度管理
日本臨床検査技師会、徳島県臨床検査技師会
日本超音波検査学会画像サーベイ
各種メーカーの精度管理調査の参加と結果報告
 - (2) 内部精度管理
院内測定機器の精度管理の結果を報告
 - (3) 品質保証施設認証制度に向けて準備
- 2) 臨床検査の院内項目の導入・廃止に関する事項
 - (1) 術中SEPシステム追加導入
 - (2) 血液ガス測定機器を更新
 - (3) トロポニンIの測定開始（トロポニンTは中止）
 - (4) 携帯型睡眠時無呼吸検査装置の更新
 - (5) 生化学自動分析装置の更新
 - (6) 心電計・ABI機器の更新
 - (7) DM教育入院患者のCVR-R、ABI、負荷心電図の検査説明と検査前安静管理を開始
- 3) 研修など
タスクシェアシフト研修の受講 4名
体表エコー1名、心エコー1名の研修開始

褥瘡対策委員会

目的

入院患者の褥瘡予防・治癒促進に向けて他職種で関わり、早期治癒を目指す
褥瘡対策に必要な体制(学習・物品・診療計画)を整え改善を図る

委員会メンバー

委員長：美馬惇（医局）

事務局：仁木博子（3階病棟）

委員：舟本（食養科）山橋（外来）
西岡（4階病棟）濱田（5階病棟）
國見（別館4階病棟）
盛（リハビリテーション科）

2022年度 活動内容

開催実績：6回

- 1) 褥瘡回診 1回/週 継続 合計47回
総件数：520件
院内新規発生件数：49件
改善率：18.2%
改善数：101件
- 2) 毎週金曜日に定期的に褥瘡回診を行った
新規発生・総件数・褥瘡改善率などを委員会で状況把握している
- 3) 作業療法士を中心にポジショニングを検討したが必要なクッションが少ないため購入を検討
- 4) 病棟が褥瘡改善のため取り入れているいい所を共有したが実践までには至らなかった
- 5) 委員会内で褥瘡に対してのドレッシング剤について・褥瘡と栄養について学習会を行った
- 6) オリーブオイルの活用
秋・冬の乾燥時にほとんどの患者に、夏は乾燥のある患者の入浴後にオリーブオイルを塗布しスキンケアを行った

防災委員会

目的

火災・災害時の防火防災計画の立案、訓練の実施を行う
病院の防災方針を検討する

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：石崎泰人(庶務課)、常陸朗広(庶務課)

委員：高原(事務部)、木下(看護部)
生田(薬剤科)、舟本(食養科)
藤井(5階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績：12回

- 1) 消防訓練:2回/年
防災訓練:1回/年
 - (1)2022年11月 防火訓練
建物火災の原因や防火管理を学ぶ
防災監視盤の操作や防災設備の使用方法を訓練
消火設備の設置場所の確認と使用方法を訓練
 - (2)2023年3月 防火・防災訓練
火災の原因や防火管理を学ぶ
新病院での火災発生時の行動や、防災設備の設置場所・使用方法を確認
消火栓、消火器を使った訓練を実施
患者避難における基本的な行動を学習し、簡易担架を使用し訓練
- 2) 消防計画、消防設備修繕等の計画
- 3) 院内防災マニュアルの改訂について議論

医師研修管理委員会

目的

医師卒後臨床研修に関する次の事項の審議
研修プログラム
研修状況
研修評価
研修修了及び中断
研修の全体的な管理
研修医に関する必要な事項

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：坂本環(医局事務課)

委員：岸田(医局)、鈴木(研修医)、野上(看護部)
加賀美(事務部)、大谷(診療技術部)
徳島大学病院医師1名、藍里病院医師1名
徳島市民病院医師1名、川島病院医師1名
むつみホスピタル医師1名
TAOKAこころの医療センター医師1名
つるぎ町立半田病院医師1名
健生阿南診療所医師1名
健生きたじまクリニック医師1名
健生西部診療所医師1名
健生石井クリニック医師1名
徳島健康生活協同組合組合員1名

2022年度 活動内容

開催実績：3回

- 1) 2022年度受け入れ研修医について紹介
- 2) 研修進捗状況の共有
- 3) 研修評価(EPOC、月間記録)の報告
- 4) 研修スケジュールと受け入れ先について協議
- 5) 卒後臨床研修プログラムについて協議
- 6) 医師臨床研修の理念・基本方針について協議
- 7) 委員交代の報告
- 8) 研修医による研修報告
- 9) 指導医・指導者からの評価報告
- 10) 医師研修マッチングへの取り組み報告
- 11) 2023年度採用者について報告
- 12) 2023年度開催予定について協議
- 13) 委員意見交換

無料低額診療委員会

目的

無料低額診療事業に関する情報共有
方針や運用に関する起案作成

委員会メンバー

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：大野(外来)、長田(地域連携相談室)
領田(医事課)

2022年度 活動内容

開催実績：4回

- 1) 毎月の申請状況や入院、外来受診の医療費の一部負担金減免金額を確認
- 2) 地域連携相談室に相談に来られた方の情報を共有
- 3) 徳島県保健福祉部の指導監査対応

医師研修委員会

目的

卒後臨床研修プログラムの検討と調整
研修医、指導医、指導者、研修環境の評価
研修進捗状況の共有・確認とサポート
研修環境向上

委員会メンバー

委員長：美馬惇(医局)

事務局：坂本環(医局事務課)

委員：松田(医局)、今井(医局)、鈴木(医局)
仁木(3病棟)、大野(外来看護)
勝野(医療安全管理室)、生田(薬剤科)
尾崎(検査科)、長田(地域連携相談室)
領田(医事課)、笠木(医局事務課)
岩野(放射線科)、楠藤(人事教育部)
小原(健康づくり事業部)

2022年度 活動内容

開催実績：12回

- 1) オンライン研修説明会について報告
- 2) 死亡症例検討会の開催について報告
- 3) 臨床病理検討会の必要性について報告
- 4) 第三者による卒後臨床研修評価の受審について共有
- 5) 研修医から月間記録の報告・委員からのフィードバック
- 6) 退院時概要の1週間以内完成にむけて協議
- 7) 研修医の病歴要約の考察を別用紙に作成することについて協議、決定
- 8) 医師以外の指導者との研修スケジュール調整について協議
- 9) インシデント・アクシデントレポート作成、促進について協議
- 10) 研修環境の改善について協議、決定
- 11) 医師臨床研修マッチングの状況共有
- 12) 初期臨床研修病院検索サイトの契約増について協議、報告
- 13) 徳島県コロナ入院調整本部研修の報告
- 14) 研修医の救急研修の機会を増やす方策協議
- 15) 医師研修管理委員会の報告、共有
- 16) 研修必須の院内ラウンド項目について共有、依頼
- 17) エコー研修評価用紙の作成依頼
- 18) 医師国家試験合格者の情報について共有
- 19) 2023年度研修スケジュールの検討、決定

感染対策チーム会議

目的

院内感染防止の対策を策定し安全な医療の提供体制を確立する

チーム会議メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：野上由起子(看護部)

委員：勝野(医療安全管理者)
小川(検査科)
生田(薬剤科)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会11回

- 1)院内で発生した感知情報の掌握と適切な対応を迅速に行う
- 2)医療機関サーベイランスについて評価する
- 3)感染対策マニュアルの作成、改訂及び職員教育を行う
- 4)院内ラウンド(1回/2週)を実施し、結果に基づいた改善活動に続ける
- 5)感染対策のための院外研修参加の呼びかけを行う
- 6)新型コロナウイルス感染症対策
- 7)新病院におけるコロナ対策
- 8)コンサルテーション
- 9)手術部位感染対策
- 10)COVID-19クラスター対応
- 11)感染対策向上加算カンファレンス参加

病院組織委員会

目的

受診された患者さんに徳島健康生活協同組合の組合員に加入していただくこと
また、多くの組合員より出資金の協力を得ることを目的とする

委員会メンバー

委員長：加賀美憲司(事務部)

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：増田(地域連携相談室)、湯浅(外来)
三木(医事課)、木下(看護部)
藤澤(4階病棟)
久米(リハビリテーション科)
宮本(食養科)、藤田(中材・OP室)
澤崎(検査科)、越智(別館4階病棟)
渡部(5階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績：8回

- 1)増資金額の病院目標確認と定点到達確認
- 2)組合員新加入数・増資件数・増資金額の部署目標確認
- 3)組合員新加入数・増資件数・増資金額の定点到達確認
- 4)入院患者及び外来患者の組合員比率の変動確認
- 5)組合員新加入の活動意思統一

事業所利用委員会

目的

当院を受診した患者の代表として、よりよい病院にするための具体的な対策を検討する
投書箱(虹の箱)に出された意見を確認し、改善活動へつなげていく

委員会メンバー

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：川口(健康生協組合員)
北浜(健康生協組合員)
松本(健康生協組合員)
杉本(健康生協組合員)
一色(健康生協組合員)
野村(健康づくり事業部)
野上(看護部)

2022年度 活動内容

開催実績：4回(うち2回文書報告)

- 1)投書箱(虹の箱)に出された意見を委員で確認し、意見に対する対応を病院管理室に依頼
- 2)対応結果を掲示板に貼り出し、患者および職員への周知

感染対策推進リーダー会議

目的

感染対策チーム会と連携し、感染予防策の実施と医療従事者の感染管理教育の推進を図る

チーム会議メンバー

事務局：野上由起子(看護部)

委員：湊(3階病棟)、高木(4階病棟)
阿部(4階病棟)、田中(別館4階病棟)
吉本(別館4階病棟)、谷本(5階病棟)
河上(5階病棟)、舟本(食養科)
岩野(リハビリテーション科)
山下(薬剤科)、江川(放射線科)
幸田(外来)、小川(検査科)
牧野(透析室)、中川(医事課)
細川(中材・OP室)

2022年度 活動内容

開催実績：10回

- 1)各部署の問題点を抽出し連携・情報交換を行った
- 2)自部署における新型コロナウイルス感染症対策のリーダー的立場として活躍した
- 3)年間2回以上開催の病院全体学習会でリーダーが主となり参加者への指導を行った
- 4)吐物処理学習会を自部署でチューターとなり学習会を開催
- 5)自部署のスタッフからの疑問等に事務局と相談し責任を持ち対応した
- 6)ミニ学習会 3回
- 7)病院全体学習会 2回
(感染対策のいろいろ～食中毒・夏の感染症など～)

コーディング委員会

目的

標準的な診断及び治療方法について院内で周知徹底し、適切なコーディング(適切な国際疾病分類に基づく適切な疾病分類等の決定)を行う体制を確保する

委員会メンバー

委員長：佐々木清美(医局)

事務局：笠木瑞穂(医局事務課)

委員：生田(薬剤科)、岩野(放射線科)
吉野(検査科)、舟本(食養科)
大野(外来)、鎌田(リハビリテーション科)
大和(5階病棟)、高原(事務部)
領田(医事課)、佐藤(システム課)
菅(システム課)、神野(システム課)

2022年度 活動内容

開催実績：2回

- 1)『褥瘡の有無について』と民医連QI指標5(厚)について報告
- 2)FIM得点と民医連QI指標18D(2020年～2022年分)について報告
- 3)適切なコーディングを行うため、必要に応じて医師会議でも報告し周知

年報編集委員会

目的

徳島健生病院年報を編集、発行する

委員会メンバー

委員長：西内貴子(医局)

事務局：笠木瑞穂(医局事務課)

委員：佐伯(放射線科)、川上(看護QI室)
青井(検査科)、長田(地域連携相談室)
郡(リハビリテーション科)
高原(事務部)、領田(医事課)
佐藤(システム課)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会11回

- 1)2021年度徳島健生病院年報の発行・配布
2023年2月に第7号を発行・配布
- 2)2021年度版は部署等の写真を掲載し、活動記事のレイアウトを変更
- 3)2021年度までは委員会を2回/月開催していたが、2022年度からは1回/月開催することとした

医療放射線管理委員会

目的

徳島健生病院における医療放射線安全管理の病院方針の起案、および具体化

委員会メンバー

委員長：岩野晃明(放射線科)

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：佐々木(医局)、加賀美(事務部)
野上(看護部)、木下(看護部)
生田(薬剤科)

2022年度 活動内容

開催実績：委員会1回

- 1)2022部位別CTDIvolのまとめ
- 2)検査依頼時の患者説明と同意
- 3)診療放射線の安全利用のための研修決定事項(全体に周知してもらいたい依頼事項)
- 4)決定事項(全体に周知してもらいたい依頼事項)
 - (1)診断参考レベルに対し当院の線量
頭部CT62%
胸部CT23%
胸部から骨盤33%
腹部CT29%
 - (2)検査依頼時の患者説明と同意は実施している
 - (3)診療放射線の安全利用のための研修はeラーニングにて学習

看護業務基準委員会

目的

安全で適切な看護が提供できるよう看護業務基準の作成・内容の改正をおこなう
それが実践されることにより、看護内容の向上と改善に繋がる

委員会メンバー

委員長：藤井浩三(5階病棟)

事務局：平尾美津子(外来)

委員：大谷(3階病棟)、平島(4階病棟)
大和(5階病棟)、小谷(別館4階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績：3回

- 1)偶数月の開催予定だったが、4月、12月は院内で新型コロナクラスターが発生し中止となった
- 2)既存のマニュアルを見直した。また各病棟や外来のマニュアルを見直し、更新を行った
- 3)更新したマニュアルを周知するため「検査手順・看護業務基準・基礎看護手順」をMyWeb内へリンクさせた
- 4)他の委員会との情報交換と連携の強化に努めた

看護記録委員会

目的

看護記録からケア・プロセスが明確に分かる記録を目指す
統一した用語を用いSOAP型式での記入を確立する
治療方針、ケアに対する看護計画を立案し実践出来るように整備、準備、周知する

委員会メンバー

委員長：鹿島住子(別館4階病棟)

事務局：大和真理(5階病棟)

委員：林(外来)、井出(3階病棟)
加納(3階病棟)、石川(4階病棟)
岑(別館4階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績：9回

- 1)毎月半日会議としていたが、会議時間を検討し、偶数月は短時間会議とした
- 2)看護記録監査表を見直し、点数化できるようにし部署単位で監査を行った
- 3)監査を行った内容の周知や院内ルールの再周知として、『記録委員会からのお知らせ』を配布し統一した
- 4)部署からの要望により、看護計画の追加を行った
- 5)診療情報管理委員会の協力により、記録についての学習会を全職場で行った

糖尿病ケアサポート委員会

目的

糖尿病ケアの質向上を目指し、糖尿病ケアに関する情報共有や症例検討、チーム間での連携の強化や周知を行う

委員会メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：川上あき子(看護QI室)

委員：西内(医局)、東條(健生歯科)
宮本(食養科)、吉尾(検査科)
四宮(リハビリテーション科)
藤井(薬剤科)、金丸(外来)
石田(外来)、大谷(3階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績 10回

- 1)教育入院(クリニカルパス含む)
外来での療養支援
糖尿病教室開催(第1・第3水曜日)
- 2)11月11日全体学習会開催
「災害時の糖尿病療養支援」33名参加
- 3)11月世界糖尿病デー啓発活動
外来ホールブルーライトアップ
外来ホールにて啓発チラシ配布
- 4)徳島県糖尿病療養指導士 4名資格取得
- 5)フットケアの取り組み
(1)外来・透析室フットケア(669件)
(2)教育入院フットケア(30件)
- 6)糖尿病患者会(たんぽぽ会)活動支援
新型コロナ流行のため未開催
外来にて月刊誌「さかえ」配布
- 7)糖尿病に関する情報共有と周知
(1)血糖測定器点検 7月～9月
(2)教育入院パス・クイズ見直し

糖尿病看護チーム会議

目的

糖尿病ケアサポート委員会と連携し、糖尿病看護の質向上を目的とする

チーム会議メンバー

事務局：川上あき子(看護QI室)

委員：石田(外来)、大谷(3階病棟)
亀井(4階病棟)、上田(5階病棟)
山田(別館4階病棟)

2022年度 活動内容

開催実績：5回

- 1)糖尿病に関する情報共有と各部署への周知
- 2)11月11日全体学習会開催
「災害時の糖尿病療養支援」33名参加
- 3)チーム会内でのミニ学習会開催
- 4)外来、透析室、教育入院でのフットケア実施
外来でのフットチェックを開始し、足病変の
予防教育やフットケアに対する意識の向上を
図った
- 5)教育入院パス・クイズ見直し
- 6)世界糖尿病デー啓発活動
(1)外来ホールブルーライトアップ
(2)外来ホールにて啓発チラシ配布

医療材料委員会

目的

院内で使用する医療材料の新規採用、変更、
試用時に安全性、使い勝手、コスト面など
多方面から検討し適正な判断を行う

委員会メンバー

委員長：松田知子(医局)

事務局：常陸朗広(庶務課)

委員：野上(看護部)、生田(薬剤科)
笠井(3階病棟)、村上(透析室)

2022年度 活動内容

開催実績：6回

- 1)SPD商品を増やし、不良在庫の削減に努めた
コロナ禍での商品欠品情報にアンテナを張り、
トラブルにならないよう注意した
- 2)新型コロナウイルス対策
マスク・アルコール類・手袋・エプロン・ガウ
ン等感染対策品の確保に加え、値上がり商品
の代替えを検討した

クリティカルパス委員会

目的

医療の標準化やチーム医療の促進ツールとしてクリニカルパスを準備・周知し、有効活用する

委員会メンバー

委員長：鎌田光洋(医局)

事務局：菅賢也(システム課)

委員：木下(看護部)、生田(薬剤部)
佐藤(システム課)、領田(医事課)
山橋(外来)、島田(リハビリテーション科)
天野(3階病棟)、富平(回復期病棟)

2022年度 活動内容

開催実績：8回

- 1) 月毎のクリニカルパス適用実績一覧で活用状況の確認
- 2) 整形疾患を中心に、新規のクリニカルパスを作成し、適応開始
- 3) 既存のクリニカルパスの見直し、修正
- 4) 患者用パス説明書を作成し、術前からの説明に活用

医療安全推進担当者会議

目的

各部署で安全対策を推進する重要な役割を担うインシデント・アクシデント報告の問題点を把握し、事故分析と再発予防策を検討する院内での周知を行う

チーム会議メンバー

事務局：勝野涼子(医療安全管理室・リハビリテーション科)

委員：宮本(食養)、武田(3階病棟)
川原(4階病棟)、近藤(5階病棟)
栗林/坂林(別館4階病棟)、大内(外来)
下岡(中材・OP室)、渡邊(透析室)
高原(デイケア室)、澤崎(検査科)
立本(リハビリテーション科)
江川(放射線科)、西窪(薬剤科)
内田(地域連携相談室)、森(医事課)
佐藤(システム課)、佐藤(庶務課)
増田(健診センター)、笠木(医局事務課)

2022年度 活動内容

開催実績：11回

- 1) 医療事事故事例の検討・分析を行い対策を立て職場で周知している
- 2) 年間の取り組みテーマを考え、職員全体に安全管理に関する意識を高めている
- 3) 院内ラウンドを行い、医療事故防止に役立っている
- 4) 全体研修
BLS訓練(計3回実施)

広報チーム会議

目的

- (1)徳島健生病院にて行われる広報活動を、より効果的・組織的に行っていくことで、経営改善につなげることを目的としその方法を発案する
- (2)病院職員にむけて、各部門における専門活動の周知を図る。また外部の医療機関、患者、組合員に向けて、患者確保、サービスの向上を目的とした広報活動の方法を発案する

チーム会議メンバー

事務局：近藤慶卓(事務部)

委員：河井(健診センター)、上野(放射線科)
西岡(検査科)、川上(看護QI室)
佐藤(システム課)、舟本(食養科)
長浜(透析室)、津川(地域連携相談室)
本浄(中材・OP室)
西村(リハビリテーション科)

2022年度 活動内容

開催実績：11回

- 1)病院広報誌「にじいろ」発行(年3回)
- 2)広報誌の配布
- 3)院内だより発行
- 4)院内掲示物の確認・管理

緩和ケアチーム会議

目的

がんなどの生命を脅かす病気を持つ患者・家族（介護者を含む）のあらゆる苦痛の緩和をはかり、少しでもQOLの高い状態でその人らしい生活を過ごせるように多職種で支援する
また、より良いケアを提供するための援助を医療者に行う

チーム会議メンバー

委員長：元山典代(4階病棟)

事務局：近藤文(4階病棟)

委員：佐々木(医局)、舟本(食養科)
山下(薬剤科)、友兼(外来)
長田(地域連携相談室)、宮本(3階病棟)
大谷(4階病棟)
三木(別館4階病棟)
天野(リハビリテーション科)

2022年度 活動内容

開催実績：12回

1)役割

- (1)緩和ケアを多職種協働で実施できるための院内システムを構築する
- (2)緩和ケアカンファレンスを当該部署、担当者で行えるよう援助する
- (3)緩和ケアに関する教育と啓発

2)活動内容

- (1)緩和ケアチーム会1回/月開催
- (2)院内の緩和ケアに関する標準化を図る
- (3)症状マネジメント・コンサルテーション
- (4)患者・家族へのケアとサポート
- (5)緩和ケア実施に関する院内の整備
- (6)看取りのアンケート見直し・変更
- (7)他職種との連携
- (8)在宅ケアの支援
- (9)地域との連携
- (10)病棟カンファレンスと振り返り
- (11)緩和ケアチーム会の内容の検討と確立
- (12)ニュース発行
- (13)地域連携緩和ケアカンファレンス参加
(チーム会メンバー・4階病棟コアメンバー)
- (14)外部Web研修参加
(チーム会メンバー・4階病棟メンバー)
- (15)広報「にじいろ」掲載
- (16)多職種での共有方法の検討・実施
- (17)看護介護症例検討会(発表)
- (18)リハビリテーション症例発表検討

3)実績

- (1)他院からの紹介件数：28件
- (2)看取り対応CC実施：28件
- (3)緩和アンケート聴取：19件

ストーマケアチーム会議

目的

ストーマ認定士と連携し、オストメイトのQOL向上を目指す
ストーマ認定士と連携し、各病棟で同じレベルのケアを行う
定期的にチーム会を開催し、各病棟やストーマ外来を継続していくための情報交換や知識の向上の場とする

チーム会議メンバー

事務局：國見由香利(別館4階病棟)

委員：吉田(3階病棟)、板東(4階病棟)
田川(外来)

2022年度 活動内容

開催実績：1回

- 1)ストーマセルフケアのためのテンプレートの見直し
内容について各病棟での意見を聞き見直しを行う
- 2)外科診察とストーマ外来の両方を予約している患者さんの診察の順番についての話し合い

骨粗鬆症対策チーム会議

目的

沈黙の疾患である骨粗鬆症治療への活動
骨折患者の減少
健康寿命の延長
徳島健生病院に骨粗鬆症センターを設立する

チーム会議メンバー

委員長：野口太嗣(薬剤科)

事務局：野口太嗣(薬剤科)

委員：峯田(医局)
平尾(看護部)、山橋(看護部)
鎌田(リハビリテーション科)
舟本(食養科)
津川(地域連携相談室)

2022年度 活動内容

開催実績：8回

- 1)2022年4月から二次性骨折予防継続管理料1、2、3をそれぞれ算定開始
<算定件数>
 - ・二次性骨折予防継続管理料1 59件
 - ・二次性骨折予防継続管理料2 3件
 - ・二次性骨折予防継続管理料3 30件
- 2)院内学習会の開催(1回)
「骨粗鬆症と治療薬について」
- 3)骨粗鬆症マネージャーを1名が取得
合計3名となった
- 4)骨粗鬆症の予防・骨粗鬆症による骨折の予防として外来待合室の座席にビラを掲示し、啓発活動を行った

ボランティア委員会

ボランティア会員相互が互いに支えあい、親睦を深めながら病院に関わるボランティア活動を通じて明るいまちづくりを目指す

委員会メンバー

未決定

2022年度 活動内容

開催実績：委員会0回

未開催

教育委員会

目的

全職員向けの個人面談計画、評価、集計を行い職員教育をサポートする

委員会メンバー

未決定

2022年度 活動内容

開催実績：委員会0回

未開催

QI委員会

目的

医療の質向上を図るための各種指標を設定し、当院の医療活動の見える化を行う
各種指標の分析を行い、病院全体の医療の質を向上させる

委員会メンバー

未決定

2022年度 活動内容

開催実績：委員会0回

未開催

看護必要度SP委員会

目的

看護必要度の適切な入力・運用について整備する
学習会を企画する

委員会メンバー

未決定

2022年度 活動内容

開催実績：委員会0回

未決定

V

研究業績



学会発表

	日時	場所	演題名	学会名	発表形式	発表者
医師	2022年11月	倉敷	当院におけるテリパラチド週2製剤による治療経験	第55回 中国・四国整形 外科学会	口演	峯田和明
	2023年2月	Web 開催	当院におけるセメントレスTKAの術後成績	第53回 日本人工関節学 会	Web発表	峯田和明
放射線技師	2022年4月	横浜	Examination of Exposure Dose Reducion Using Deep Learning Reconstruction in the Second Position of CT Colonography	日本放射線技術 学会 第78回総会学術 大会	口演	岩野晃明 江川英志 赤川拓也 高原文治
理学療法士	2022年11月	Web 開催	油圧制動付き短下肢装具(Gait Solution)を取り外すために必要な脳梗塞後の運動療法の一考察	第50回 四国理学療法士 学会	Web発表	天野 晋
	2022年11月	Web 開催	睡眠時無呼吸症候群を合併した高度肥満2型糖尿病症例に対する継続的なフォローアップの効果	第50回 四国理学療法士 学会	Web発表	酒井悠伍
	2022年12月	Web 開催	THA施行後頻回に脱臼を繰り返す右THA再置換術を施行された症例～伝い歩き・独歩獲得を目指して～	第1回 徳島県臨床推論 研修大会	Web発表	宮田菜々
	2022年12月	Web 開催	右側へ転倒歴のある腰部脊柱管狭窄症術後の患者に対して背屈筋力に着目したアプローチの一考察	第1回 徳島県臨床推論 研修大会	Web発表	森野春花
作業療法士	2023年2月	Web 開催	右上肢不全麻痺により食事場面で箸使用が困難となった事例への介入～右手はあかんわ～	徳島県作業療法 士協会教育部共 通研修「事例検 討・報告会」	Web発表	園部智之
	2023年2月	Web 開催	「なんもしたくない」「しんどい」が目標共有によって自発性を生んだ一例	徳島県作業療法 士協会教育部共 通研修「事例検 討・報告会」	Web発表	福本星菜

講演会

	日時	場所	演題名	講演会名	講演者
放射線技師	2022年8月	Web 開催	大腸CTにおけるガストログラフィンとコロンフォートの比較検討	第10回 埼玉県大腸CT研究会	岩野晃明
	2022年11月	Web 開催	CTCで失敗しない拡張を神解説	第8回 中四国スクリーニングCTC研究会	岩野晃明 笹井信也
	2023年2月	Web 開催	大腸拡張法について～失敗しない大腸拡張法～	第11回 埼玉県大腸CT研究会	岩野晃明
	2023年3月	大阪	大腸CT検査失敗しない腸管拡張	第21回 消化管先進画像診断研究会	岩野晃明

論文

	題目	共著者	掲載誌名	巻ページ等
放射線技師	CT Colonographyにおける腸管洗浄剤低用量分割飲用法のタギングに硫酸バリウムとガストログラフィンを使用した比較検討（原著）	岩野晃明 永田浩一 高原文治 江川英志	日本放射線技師会雑誌	69(10):1172-1183,2022.

2022年度医療介護活動・運動交流集会

日時	2022年10月1日(土)
開催場所	オンライン開催
テーマ	「食べることは生きること」 ～お口の衰えを防ごう～
	①オーラルフレイル 健生歯科 歯科衛生士 藤本小春 ②食べるしくみと嚥下リハビリ 徳島健生病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 鎌倉めぐみ ③高齢者の食事と栄養 徳島健生病院 食養科 管理栄養士 田尻有紀 ④口腔ケアの統一に取り組んで徳島健生病院 別館4階病棟 介護福祉士 河野晃宣

院内全体学習会

開催日	学習会名	主催
2022年6月	前期全体学習会「正しい確認」レポート形式	医療安全管理対策委員会
2022年6・11月	BLS全体学習会	医療安全推進担当者会議
2023年1月	セキュリティ学習会	システム委員会
2023年3月	後期全体学習会「診療放射線について」レポート形式	医療安全管理対策委員会 医療放射線管理委員会
2023年3月	外来化学療法・連携充実加算に関わる研修会 「閉経後ホルモン受容体陽性HER2陰性乳癌の周術期薬物療法」	化学療法委員会

VI

病院活動



専門的な治療について

専門外来

【内 科】

睡眠時無呼吸症候群(SAS)外来	2005年 6月開設
診療日	毎週水曜日 9:00～12:00 14:00～17:00 毎週木曜日 14:00～18:00
担当医師	林和廣 中野万有里
担当スタッフ	看護師 臨床検査技師
診療内容	睡眠状況解析 指導
患者数	40～50名/月
SAS検査数	23件
CPAP件数	158件
CPAP患者数	109名

禁煙外来	2013年 4月開設
診療日	毎週木曜日 14:00～18:00
担当医師	林和廣
担当スタッフ	看護師
診療内容	治療 禁煙指導 メンタルケア

呼吸器外来	2019年 5月開設
診療日	毎週木曜日15:00～18:00
担当医師	今井正雄 林和廣
担当スタッフ	看護師 臨床検査技師
診療内容	呼気NO分析検査 治療 生活指導
患者数	80～100名/月

糖尿病教室	2010年 4月開設
診療日	第1・3水曜日 14:00～14:30
担当スタッフ	医師(内科・眼科・歯科) 糖尿病看護認定看護師 糖尿病療養指導士 看護師 臨床検査技師 薬剤師 管理栄養士 理学療法士

フットケア外来	2015年 4月開設
診療日	月～金 午前中 月～木 午後
担当医師	内科医師
担当スタッフ	糖尿病看護認定看護師 糖尿病療養指導士
診療内容	フットケア指導 実践
患者数	30～35名/月
フットケア年間のべ回数	370件

【外 科】

ストーマケア外来	2019年11月開設
診療日	第3週木曜日 9:00～12:00
担当医師	美馬惇
担当スタッフ	ストーマ認定士
診療内容	術前ケア 術後のメンタルケア セルフケア指導
患者数	3～4名/月

【整形外科】

骨粗鬆症外来	2019年 4月開設
診療日	毎週木曜日 9:00～12:00
担当医師	峯田和明
担当スタッフ	看護師 薬剤師 理学療法士 管理栄養士 事務
診療内容	検査 治療 指導
患者数	160～180名/月

2022年度 主な行事

〔病院・デイケア〕

<2022年>

4月	入職式 新入職員オリエンテーション
5月	メーカー集会（オンライン）
6月	医療安全全体学習会 健康生協総代会 CPC（病理検討会） BLS学習会 5 S ラウンド
7月	
8月	
9月	
10月	医療・介護活動交流集会（オンライン）
11月	防火訓練 安全（転倒）ラウンド（11月～12月）
12月	

<2023年>

1月	
2月	接遇セミナー（2月～3月）
3月	医師団会議 医療安全全体学習会 防火・防災訓練

〔通年行事・活動〕

- ・ 9条プラスター宣伝（毎月9日）
- ・ 「安倍9条改憲NO!」宣伝（毎月3日・19日）
- ・ 原発ゼロイレブン行動（毎月11日）
- ・ 消費税増税反対早朝宣伝行動（1回/月）
- ・ 組合員100%デー（毎月平日の10日・20日・30日）
- ・ 地域クリーン活動（毎月平日の10日・20日・30日）

※看護介護活動研究交流集会 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

※地域連携懇談会 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止

徳島大学医学部指定実習(指定学外実習Ⅰ・Ⅱ)

実習期間	種別	実績	学年
2023年 1月10日～2月 3日	指定学外実習Ⅰ	2名	5年生
2023年 2月13日～3月10日	指定学外実習Ⅱ	2名	5年生

理学療法学生実習

実習期間	種別	実績	学年
2022年 5月 9日～7月 1日	総合臨床実習	1名	3年生
2022年 7月25日～9月16日	総合臨床実習	1名	4年生
2023年 2月20日～2月24日	見学実習	1名	1年生
2023年 2月27日～3月 2日	見学実習	1名	1年生

作業療法学生実習

実習期間	種別	実績	学年
2022年 7月11日～7月17日	見学実習	1名	1年生

管理栄養士実習

実習期間	種別	実績	学年
2022年 5月16日～5月20日	臨地・校外実習	2名	4年生

医学生病院実習

実習期間	種別	実績	学年
2022年5月6日	内科外来・多職種見学・医師懇談	1名	5年生
2022年5月26日	内科外来・内科医CC・医師懇談	1名	6年生
2022年7月21日	手術室・外科手術見学	1名	3年生
2022年7月25日～26日	石井クリニック・産業医会社訪問同行	1名	6年生
2022年7月27日～8月4日	研修医同行・病棟回診・CC 当直・訪問看護	1名	6年生
2022年8月8日	内科外来・整形外科手術見学	1名	3年生
2022年8月17日～19日	内科CC・多職種・当直・訪問診療 研修医同行	1名	6年生
2022年11月16日	内科外来・病院見学・懇談	1名	1年生

医科栄養学科病院実習

実習期間	種別	実績	学年
2022年10月27日	食養科見学	1名	1年生

○高校生医師体験 夏休み

○高校生医師体験 春休み

○中学生職場体験

○患者会活動 いきいき会・たんぽぽ会

○班会活動

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

2022年12月 院内クラスターのまとめ

2023年1月17日
徳島健生病院 感染管理認定看護師
野上由起子

2022年12月1日、5階病棟（回復期リハビリテーション病棟）入院患者1名の発熱症状がありCOVID-19感染症と判明した。その後、同病棟において患者20名、職員16名が感染した。同月8日、4階病棟（地域包括ケア病棟）で患者1名が発熱しCOVID-19感染症と判明、その後患者20名、職員6名が感染。10日、3階病棟（急性期病棟）患者9名、職員5名が感染。

3つの病棟で患者49名（うち3名死亡）、職員27名が感染した。
院内のクラスター終息は1例目の発生から1ヶ月半が経過した2023年1月16日とした。

【経過】

5階病棟では、11月29日（火）介護福祉士1名のCOVID-19感染が判明していた。外出禁止、面会などを制限していた為、患者からの発症は考えにくくこの職員から患者に感染し病棟内に伝播したのではないかと考えている。患者1名の感染判明後、病棟内の患者と職員のコロナ抗原定量検査を実施し患者2名が陽性、判定保留が1名、職員1名の陽性が判明した。その後、濃厚接触者となった同室者が数日経過後に咽頭不快感、咽頭痛の訴えがあり検査の結果陽性が判明。陽性者1名が状態悪化の為、基幹病院転院となり治療後帰院された。5階病棟では12月29日にクラスターが終息した。

4階病棟では、12月8日（金）1名の陽性者報告があり、同室者の検査を実施した。発症2日前から接触があった職員の検査を実施した。接触がなかった1名と、連絡が付かなかった事を理由に看護師1名が検査未実施となっていた。検査未実施の看護師が13日に咽頭不快感を訴えた為検査を実施したところ検査値が7.08pg/mlと判定保留、翌日は2.85 pg/mlであった。特に悪化症状がないということから無症状の陽性者でありこの看護師が発端だった可能性も考えられた。また、8日に発症し治癒した患者が1月6日、再活性化により定量検査で5000 pg/mlであった。個室管理とし同室者も濃厚接触者として隔離感染対策を開始した。再活性化は当院としては初めての経験であったため徳島大学病院感染制御部のCNICに治療・感染対策等の相談をした。治療については医師同士で相談していただくこととなった。CNICによると再活性化はしばしば起きているようで個室管理、同室者は濃厚接触者として検査を実施しているとのことであった。がんのターミナル期で免疫が落ちているために再活性が起きたと考えられた。同病棟のクラスター終息は1月16日。

3階病棟では、12月10日（日）に、ADL自立患者1名の陽性報告があり一旦4階病棟の感染症対応病床に転棟したが、後日同病棟に帰棟した。3階病棟では1名の報告から4日経過後、新規感染報告はなく最終報告者の6日後（12月20日）から入院受け入れ及び、手術も再開した。救急患者受け入れと手術患者に集中する為、陽性者3名を4・5階病棟に転棟させ感染者がゼロになったことから12月26日にクラスターは終息した。

【総括】

5階病棟から始まったCOVID-19感染症のクラスターは4階病棟、3階病棟でも猛威を振るったが、感染源はそれぞれの病棟からのものではなかったのではないかとと思われる。5階病棟は介護福祉士、4階病棟は看護師、3階病棟は売店を行き来していた患者が感染源^{*1}と考えられる。5階病棟で陽性患者が報告されたのは夜間であったが、その翌朝から更衣室も分けリハビリも病棟担当制に変更し従来の感染対策に加え対策強化を図った。また、徳島保健所へコンサルテーションを行い12月14日、県クラスター班の介入を依頼し徳島大学病院感染制御部からICD、CNICに来院いただき、聞き取り及びラウンドを実施。この際に、クラスターが発生するまでの当院の感染対策、病室の独立

換気についても高評価を受け、上記^{*1)}についての可能性もご指摘いただいた。また、4階病棟では看護師1名が12月16日から咳・咽頭痛の症状があったにも関わらず近医を受診し内服処方を受けながら勤務を継続していた。上司に報告があったのは、症状出現後5日目(12月21日)であり、定量検査にて551.04 pg/mlであった。症状は軽減しているとのことで自宅療養を症状出現から7日目の23日までとし、24日に再検査後陰性確認し職場復帰とした。復帰時再検数値は2.17 pg/mlであった。この職員が関わった患者への曝露についてはクラスター時期と重なった為影響は不明。体調不良を上司に報告できない環境なのか、本人自身の特性なのか。前者であれば環境づくりが重要である。

スタッフの日々弛まぬ努力(日常行動制限の)下、感染対策を厳重に行っていても、県下でCOVID-19感染症が蔓延している状況下ではクラスターはいつ発生してもおかしくない。今回のようにスタッフの感染を機に病棟内で広がったとしても個人を責めるようなことはしてはならない。振り返りとして留めて置くことが必要と考える。日ごろから標準予防策の重要性を全てのスタッフが理解し実践する事が大切であり、クラスターを最小限に防ぐために感染管理者として指導及び啓発を続ける。

【教訓】

- ・陽性者の報告により個室管理、コホーティングを実施するが夜間帯は避けるべきと考える。5階病棟で報告があった際に帰宅していたスタッフを検査目的で呼び出し検査結果判明を待っている間(消灯時間を過ぎて)に部屋交代を行った。PPE着脱・手指衛生も不十分な知識の下で行いスタッフへの曝露、また環境汚染により感染拡大した可能性もある。部屋交代は昼間に少人数で実施する事が望まれる
- ・入浴、リハビリ、患者担当制など不特定多数が関わる状況は避けることが重要
⇒入浴、リハビリは即一旦中止
患者担当制は病室担当制に変更する
- ・陽性者、濃厚接触者とそれ以外の患者担当については分けて対応するように工夫が必要
- ・病室ごとに使用するトイレを決めておくこと感染拡大を少しでも留める事ができる可能性がある
- ・高齢者は陰性化に長期間要する事が今回の再検の結果から判明した。定量検査で検査値が3桁の場合は隔離解除せず検査値が2桁になってから解除を行う
- ・がんターミナルの陽性者は陰性化しても状態により再活性化の可能性がある為、陰性化後も個室管理を検討する
- ・がんターミナルの陽性者で陰性化した患者の吸引を実施する際はN95マスクの着用が必要。また積極的な吸引は控える
- ・患者指導(感染拡大時期は夜間問わずマスクの着用、手指消毒、拭き取りの協力等)が重要⇒入院案内に記入する
- ・ゾーニングは早期に実施する
- ・直ぐ使う備品の準備は汚染を防ぐ為、最小限にする
- ・情報共有はオンラインを活用し密に行う
- ・陽性者、濃厚接触者に対する説明は主治医からしてもらう
- ・濃厚接触者の検査はまず同室者から実施する。その後他の病室から陽性者が報告されるようであれば検査対象者を広げる
- ・濃厚接触者の検査は0・3・5日目に実施する

・体調管理に努める

全職員集会資料

徳島健生病院 全職員集会 資料
2023年5月23日、24日、26日

コロナクラスターで得たこと

徳島健生病院 看護部長
感染管理認定看護師 野上由起子

2020年4月～2023年3月末までの 職員コロナ陽性者推移



- ①2020年4月～2022年11月末まで、31名が感染(第1波～第7波)
- ②2022年12月～2023年1月末までは、52名が感染。2月2名、3月1名が感染(第8波)
- ②の時期は病棟でのクラスターにより職員の感染が増加
- 最終的に病院全体の職員、約1/4が感染するほどの驚異的な感染力

12月(第8波)のクラスター

- 12月1日、5階病棟入院患者1名の陽性報告から始まり、4階病棟、3階病棟で報告が相次いだ
- 翌年、1月16日の終息までに5階病棟患者20名、職員16名。4階病棟患者20名、職員6名。3階病棟患者9名、職員5名。3名の方がお亡くなりになった

第7波までクラスターが起きなかったのは奇跡ではなく**全職員の努力の賜物**
第8波のクラスターは避けることはできなかった

コロナ禍で一層深まった職種を越えた連帯感

- 厳しい行動制限、黙食
- 自分が感染しても扱げない対策
⇒職員間での感染報告ごくわずか
- 体調不良時は出勤前に職場長に報告
⇒職場長の皆さんご苦労様でした。連絡ありがとうございます
- 感染した人を責めることはない
⇒職場復帰を温かく迎えてくれた職場のみなさんありがとうございました



患者さん・仲間を守る！クラスターを起こさない！という一人一人の思いが大きな力となり、苦しいことが多かったが、さらに連帯感が深まった。

健生病院の良いところ

- 自分だけが良ければいいとは思っていない
- 困っている人がいれば必ず手を差し伸べることができる
- 一人でどうにもできないときはみんなに声をかけて一緒に考える
- 楽しいことも悲しいこともみんなに分かち合うことができる
- とにかく、みんな優しく、良い人ばかり

こんなに素敵な職場でみなさんは働いています。
もっと素敵で輝く健生病院をみんなで作りましょう！！

引き続き、感染対策へのご協力よろしくお願いします

徳島健生病院だより



はじめに

地域・組合員のみなさまに当院のことを身近に感じ、より一層知っていただくことを目的として、徳島健生病院だより「にじいろ」を発刊している。

医療コラム、部署紹介、ストレッチやレシピなどのほか、病院の多彩な活動をお知らせする内容となっており、2016年の新年号より創刊し、年4回発行、2019年度から年3回発行している。

院内各所に設置して来院される方に配布、地域の組合員のみなさまには、徳島健康生協機関紙「健康と生活」とともにお届けしている。

また、地域の診療所、病院、施設など126カ所に送付しているほか、近隣の店舗や保育園、公共施設などへ設置させていただくことで、地域とつながる「病院だより」を目指している。

発行実績（2022年度）

発行日	記事内容	
春号 (vol.22)	巻頭	健康診断を受けませんか？
	コラム	健生病院の緩和ケア
	部署紹介	検査科
	新任医師紹介	外科 吉田禎宏医師 内科 森敬子医師
Vol.23	巻頭	大腸がん検診を受けませんか？
	コラム	睡眠時無呼吸症候群とは
	部署紹介	地域連携相談室
	新任医師紹介	放射線科 神原康夫医師 整形外科 鎌田光洋 内科（総合診療） 吉田勇人医師 研修医 鈴木耕一郎医師 鴨川敬医師
Vol.24	巻頭	ドライブ DWIBS（全身MRI）健診 ～PET-CTに代わる次世代の全身がん検査～
	コラム	骨折ゼロをめざして ～骨粗しょう症チーム会のとりのくみ～
	部署紹介	食養科
	お知らせ	そよかぜ薬局移転しました！

◆次ページより：Vol.24を掲載



ドゥイブス DWIBS(全身MRI)健診 ~PET-CTに代わる次世代の全身がん検査~

●DWIBS (ドゥイブス) とは、MRIの一種で、短時間でできて体にも負担の少ない最新の画像診断法です。CT検査、PET-CT検査と似ている部分がありますが、放射線を使用せず、磁場を利用して高周波を人体に送ることで撮影をします。簡単で負担の少ない検査法として注目されています。



特長

- PET-CTと同様の精度だが費用が比較的安価
- 放射線被ばくがない
- 薬剤投与(注射) がない
- 検査前の絶食は不要



PET-CT検査との比較



検査方法	DWIBS	PET-CT
料金	25,000円(組合員)	10万円前後
被ばく	なし	あり(薬剤・CT撮影)
薬剤・注射	なし	あり(検査薬)
検査時間	約40分	検査前処置を含めて3時間
検査後処置	なし	放射能が下がるまで待機
食事制限	なし	検査5時間前から絶食
検査できない人	ペースメーカー・金属プレート	糖尿病・腎疾患・妊婦
検査に適しているがん	咽頭がん、甲状腺がん、 食道がん、乳がん、肝臓がん、 胆管がん、大腸がん、 子宮がん、卵巣がん、 尿路系がん(腎臓・尿管・膀胱・前立腺) 悪性リンパ腫など	頭頸部(咽頭、副鼻腔、咽頭など) 甲状腺がん、食道がん、 肺がん、乳がん、膵臓がん、 大腸がん、卵巣がん、 子宮がん、悪性リンパ腫など

- 胃・肺などの部位にはあまり適さないため、全身検査をより効果的に行うには、胃内視鏡(胃カメラ)検査や胸部CT検査を合わせて受けることをおすすめします
- 撮影した画像は放射線科医が読影し、1週間程度で検査結果をお知らせします

検査日時 毎週木曜日 11:00・11:45 (各1名)

検査時間 約40分

料金(税込) 組合員 ¥25,000 未加入 ¥30,000

要予約

健診センターまで
お問い合わせください

骨折ゼロをめざして ～骨粗しょう症チーム会のとりのくみ～

みなさんの骨は健康ですか？

骨折はしたことがないから大丈夫、運動もしているし食事も気をつけているから自分は骨粗しょう症なんかではない、と思っていないですか？

徳島健生病院では毎週木曜日に骨粗しょう症外来を設けており、積極的に治療をおこなっています。また、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などで構成された「骨粗しょう症対策チーム会」の活動も行っています。月に1回チーム会議を開き、知識・情報の共有、患者さんやスタッフに向けての啓発活動などを行っています。骨粗しょう症の専門的な資格である「骨粗しょう症マネージャー」の資格取得にも取り組んでおり、現在2名のスタッフが資格を持っています。

骨粗しょう症は、骨の強度が弱くなり骨折しやすくなる病気です。一度骨折をしてしまうと、今まで元気に歩いていたのに歩けなくなってしまうこともあります。骨折しにくい強い骨にすることが大切です。骨粗しょう症の危険性が高い方は一度医師に診察してもらってもいいかもしれませんね。骨密度検査を検診で受けることもできますので、ぜひご利用ください。

あなたの骨の健康度をチェックしてみましょう！



①牛乳・乳製品をあまりとらない	2
②小魚・豆腐をあまりとらない	2
③たばこをよく吸う	2
④お酒はよく飲む方だ	1
⑤天気のいい日でも、あまり外に出ない	2
⑥体を動かすことが少ない	4
⑦最近、背が縮んだような気がする	6
⑧最近、背中が丸くなり、腰が曲がってきた気がする	6
⑨ちょっとしたことで骨折した	10
⑩体格はどちらかといえば細身だ	2
⑪家族に「骨粗しょう症」と診断された人がいる	2
⑫糖尿病や、消化管の手術を受けたことがある	2
⑬（女性）閉経を迎えた／（男性）70才以上である	4
	合計 点

合計3点以上	合計6点以上	合計10点以上
骨が弱くなる可能性があります。気をつけましょう。	骨が弱くなっている危険性があります。注意しましょう。	骨が弱くなっていると考えられます。一度医師の診察を受けてみてはいかがでしょうか。



部署紹介 【食養科】

2021年6月より、回復期リハビリテーション病棟に1名が専任配置され、管理栄養士3名体制となりました。外来での栄養相談や、入院患者さんの栄養管理などが主な業務です。

NST(栄養サポートチーム)での活動のほか、糖尿病、褥瘡、緩和ケア、骨粗しょう症など、様々なチームに参加し、多職種と連携しながら食事療養をサポートしています。

入院時には栄養状態や食事摂取量、体重の変化などを確認し、「栄養管理計画書」を作成します。また、食欲がないなど、食事が十分にとれていない方には、直接お話を伺って嗜好に合わせた食事内容に調整を行うなど、少しでも食べていただけるように工夫しています。

実際に食べている様子を確認し、言語聴覚士と相談しながら、食べやすい食形態で提供できるような対応も行っています。

そして退院時には、自宅での食事療養についても一緒に考えていきます。

病院での食事は治療の一部ではありますが、楽しみのひとつでもあります。

食事についてお困りのことがあれば管理栄養士にご相談ください。



言語聴覚療法士さんといっしょに…



しっかりとカルテを確認中！



ひとつずつご飯を計量しています

いつまでもおいしく
食べられますように！



そよかぜ薬局移転しました！



2022年10月、健生病院駐車場北側に移転しました。
 駐車場内を横断すると大変危険です。
 病院玄関前の通路をご利用ください。

診療時間表

		月		火			水			木			金			土		
		午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後	夜間	午前	午後
①午前9：00～12：00																		
②午後14：00～17：00																		
③夜間17：00～18：00																		
内科・総合診療科	午後14：00～17：00	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○			○	
整形外科	一般外来受付は10：00まで	○			○	予約		○			予約		○					
外科	夜間16：30～17：30	○		○	○			○			○		○		○			
眼科	午後15：00～17：00 土曜日は第1・第3のみ	○	○		○			○	○		○	○		○	○			○
脳神経外科	9:00-12:00 木曜は第1・3のみ				○			○			○		○		○			
健診センター		○			○			○			○			○				予約

- ◆ 医師体制表は健生病院の窓口でお渡ししています
- ◆ 急患の方は時間外でも診療しています

専門外来 (要予約)

発達外来	水曜	午前
呼吸器外来	水曜	14:00～17:00
禁煙外来	水曜・木曜	午後
ストーマ外来	第3木曜	9：00～12：00
骨粗鬆症外来	木曜	9:00～12:00
睡眠時無呼吸外来	木曜	午後



友だち登録をお願いします！

徳島健生病院

〒770-8547 徳島県徳島市下助任町4丁目9
 TEL：088-622-7771(代表)
 ホームページ：<https://kenkou-seikyuu.com>



医師名簿 (50音順)

【内科・総合診療科】

[常勤医]

阿部潤一	日本内科学会認定医 日本神経学会神経内科専門医	日本病院総合診療医学会認定医 臨床研修指導医 インフェクションコントロール ドクター (ICD)
今井正雄	日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 日本医師会認定産業医 日本医師会かかりつけ医 総合診療領域特任指導医 (プログラム統括責任者) 家庭医療専門研修 プログラム責任者	村野栄一 日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 日本医師会認定産業医 総合診療領域特任指導医
岸田典子	日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 (プログラム責任者) 総合診療領域特任指導医 (プログラム統括責任者) 日本病院総合診療医学会認定医	山下英世 日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 臨床研修指導医 総合診療領域特任指導医
古川民夫	日本医師会認定産業医 日本医師会かかりつけ医 徳島県医師会糖尿病認定医 徳島県医師会認定学校医	
中野万有里	日本内科学会認定医 日本内科学会総合内科専門医 臨床研修指導医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本感染症学会感染症専門医 日本結核病学会抗酸菌症認定 医・指導医 インフェクションコントロール ドクター (ICD)	
松田知子	医学博士 日本プライマリケア連合学会 認定医・指導医 総合診療領域特任指導医	

医師名簿 (50音順)

【内科・総合診療科】

[非常勤医]

遠藤健 日本内科学会認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医

大倉佳宏 日本プライマリケア連合学会専門医・指導医
臨床研修指導医
家庭医療専門医
産業医科大学認定産業医

田中宏実 臨床研修指導医

林和廣 日本臨床内科医会認定医
日本プライマリケア連合学会認定医・指導医
日本医師会認定産業医
日本禁煙学会認定禁煙専門指導者
日本禁煙科学会認定上級禁煙支援士
総合診療領域特任指導医

堀内宏美

吉田全夫 臨床研修指導医
日本医師会認定産業医
日本糖尿病協会療養指導医

吉田勇人 日本外科学会認定医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医
日本体育協会認定スポーツドクター

森敬子

【外科】

[常勤医]

佐々木清美 日本外科学会専門医
日本外科学会専門研修指導医
麻酔科標榜医
臨床研修指導医
検診マンモグラフィ読影認定医

美馬惇 日本外科学会専門医
臨床研修指導医

美馬一正 日本外科学会専門医
日本外科学会専門研修指導医
日本消化器外科学会認定医
麻酔科標榜医
臨床研修指導医
日本医師会認定産業医
検診マンモグラフィ読影認定医

[非常勤医]

吉田禎宏 日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器癌外科治療認定医
麻酔科標榜医
臨床研修指導医

医師名簿 (50音順)

【整形外科】

[常勤医]

岡田正彦 日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会スポーツ認定
医
日本整形外科学会運動器リハビ
リテーション医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄
病医
日本リウマチ学会専門医
リウマチ財団登録医
日本脊髄病学会認定脊椎脊髄外
科専門医・指導医
日本整形外科学会認定研修指導
者
日本リハビリテーション医学会
認定臨床医
脊髄モニタリング認定医
臨床研修指導医

峯田和明 医学博士
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄
病医
リウマチ財団登録医
日本人工関節学会認定医
臨床研修指導医

鎌田光洋 日本整形外科学会専門医

[非常勤医]

松本壮司 日本整形外科学会指導医
日本整形外科学会認定
脊椎脊髄病医
日本リウマチ財団登録医
日本整形外科学会認定リウマチ
医
日本整形外科学会認定運動器
リハビリテーション医
日本体育協会公認スポーツドク
ター

【眼科】

[常勤医]

西内貴子 医学博士
日本眼科学会眼科専門医
臨床研修指導医

[非常勤医]

佐藤志乃 医学博士
日本眼科学会眼科専門医

【脳神経外科】

[非常勤医]

藤本尚己 医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治
療認定医

【心療内科】

[非常勤医]

鳥海和広 日本精神神経学会精神科専門
医・指導医
日本医師会認定産業医
精神保健指定医

【透析科】

[常勤医]

岸田典子 日本プライマリケア連合学会
(再掲) 認定医・指導医
臨床研修指導医
(プログラム責任者)
総合診療領域特任指導医
(プログラム統括責任者)
日本病院総合診療医学会認定医

【放射線科】

[非常勤医]

神原康夫 日本医学放射線学会放射線診断
専門医
日本医師会認定産業医

部署別資格取得一覧

【外来】

上田美香	消化器内視鏡技師
幸田史恵	日本糖尿病療養指導士 徳島県糖尿病療養指導士 糖尿病重症化予防「フットケア」研修終了
平尾美津代	徳島県糖尿病療養指導士 医療リンパドレナージセラピスト 日本骨粗鬆症マネージャー

【病棟】

大谷真理子	日本糖尿病療養指導士 徳島県糖尿病療養指導士
鹿島住子	認定看護管理者教育課程フェーストレベル
亀井愛深	徳島県糖尿病療養指導士
國見由香利	日本ストーマ認定士 臨床スキンケア看護師 オムツフィッター2級
近藤大作	介護職員等による痰の吸引等研修事業研修終了 認知症介護実践者研修終了
細川慎司	透析技術認定士
宮崎絢音	徳島県糖尿病療養指導士

【中材・OP室】

戸村美奈	第二種滅菌技師
藤田葵	第二種滅菌技師

【透析室】

牧野智和	透析技術認定士 呼吸療法認定士
村上正二郎	透析技術認定士 呼吸療法認定士 MDIC認定 徳島県糖尿病療養指導士
吉見優美	透析技術認定士

【看護部】

木下敬子	認定看護管理者教育過程フェーストレベル
野上由起子	感染管理認定看護師

【医療安全管理室】

勝野涼子	医療安全資格者
------	---------

【看護QI室】

川上あき子	糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養認定指導士
-------	----------------------------

【検査科】

小川由紀子	緊急臨床検査士 日本糖尿病療養指導士
尾崎眞弓	徳島県糖尿病療養指導士
澤幸代	二級臨床検査士(血液)
吉尾章智	超音波検査士(循環器領域)
吉野貴子	超音波検査士(消化器領域) 超音波検査士(循環器領域)

【放射線科】

池村和雄	検診マンモグラフィ撮影認定 診療放射線技師
岩野晃明	X線CT認定技師 大腸CT検査技師
上野美涼	検診マンモグラフィ撮影認定 診療放射線技師
江川英志	大腸CT検査技師

部署別資格取得一覧

【リハビリテーション科】

安部つかさ	徳島県糖尿病療養指導士
天野晋	徳島県糖尿病療養指導士
小倉陽平	回復期リハビリテーション協会 認定セラピストマネージャー 福祉住環境コーディネーター 1級
蔭西亮	徳島県糖尿病療養指導士
鎌倉めぐみ	LSVT
郡啓佑	認定理学療法士：運動器 徳島県糖尿病療養指導士
郡未翼	徳島県糖尿病療養指導士
四宮涼太	認定理学療法士：代謝 日本糖尿病療養指導士 徳島県糖尿病療養指導士
清水一成	介護支援専門員
西村直華	徳島県糖尿病療養指導士
松本由紀子	介護支援専門員

【食養科】

田尻有紀	健康運動指導士 徳島県糖尿病療養指導士
舟本優子	徳島県糖尿病療養指導士

【薬剤科】

生田佳津	日本医師会医療安全推進者
大谷知子	日本老年薬学認定薬剤師 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
野口太嗣	骨粗鬆症マネージャー
山下展之	日本静脈経腸栄養学会NST専門 療養士

【デイケア】

澤村ゆかり	徳島県糖尿病療養指導士
森優子	介護プロフェッショナル キャリア段位制度 アセッサー

【地域連携相談室】

津川博美	徳島県糖尿病療養指導士
長田聖	介護支援専門員 健康運動指導士
堀尾千裕	認知症ケア専門士

【庶務課】

石崎泰人	第2種ME技術者
------	----------

【医事課】

常陸朗広	甲種防火管理者
------	---------

【医局事務課】

笠木瑞穂	診療情報管理士
------	---------

【システム課】

佐藤博隆	医療情報技師
神野高朗	医療情報技師

【事務部】

加賀美憲司	甲種防火管理者講習
近藤慶卓	介護支援専門員

編集後記

2022年度年報も無事発刊することができました。今回も皆様のご協力、本当にありがとうございます。

この間、積極的に発熱対応を行ってきました。外来や入院での感染対策の徹底のため、面会制限など病状を心配するご家族の不安に対応するために電話説明やオンライン面会なども取り入れてきました。また、感染拡大が落ち着けば、緩和するなど忙しい1年でした。2022年12月に、全国的な第8波の中、はじめてクラスターが発生し、感染経路が断定できない中での拡大に職員一同が先のみえない不安を感じました。幸い、約1ヶ月で終息しましたが、5類移行までの間さらに厳しい対策や職員の行動規制などのため、病院活動や健康生協活動、民医連運動の多くは制限されてきました。早くコロナ禍前のように顔を合わせて活動できる日がくることを祈るばかりです。

状況は刻々と変化していますが、なお精神面ともに緊張の中にあります。

ひきつづき地域での私たちの医療を再確認しつつ、歩みをすすめています。

2023年10月吉日

年報編集委員長 西内貴子